

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

格差拡大、価値創造力奪う

米大統領選が映すもの

政治家の歴史観

EUの夢と幻滅

第67巻5号
28年5月号

国会図書館永久保存書

吉川 洋
久保 文明
細谷 雄一
藤原 翱一



アムステルダム・オランダ

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て發展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる發展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和經濟会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と經濟活動を通して、さらに公私經濟の發展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和經濟会

公益社団法人

昭和經濟会の案内

(元財務省大臣官房所管)

創立と趣旨

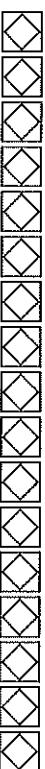
会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私經濟の發展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の經濟、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、稅務、經營相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和經濟」の発行



五月号・目次



卷頭言 佐々木誠吾 (2)

わが回想記 堀江 忠男 (42)

格差拡大、価値創造力奪う 吉川 洋 (12)

蘭子の心情 ランコ岩本 (44)

米大統領選が映すもの 久保 文明 (17)

二〇一六年の内外経済を展望する

政治家の歴史観 細谷 雄一 (22)

五十嵐敬喜 (56)

E U の夢と幻滅 藤原 帰一 (26)

昭経俳壇 (69)

被災地支援、長期の視点で 大西 隆 (30)

後記隨想 佐々木誠吾 (72)

T P P 批准 伊藤 元重 (35)

特別贊助会員 (126)

自分と出会う 植田 重雄 (39)

卷頭言 佐々木誠吾

九州熊本市を中心に

震度7の地震発生

NHKテレビのニュース・ウォッチ9を見ていた。突然のニュース速報が飛び込んできた。地震発生のニュース速報である。

今夜、21時26分過ぎに震度7を観測する強い地震が熊本市を中心に発生した。震源地は熊本市に近い益城町で震源の深さは10キロと推定される。熊本市を中心とした周辺の広い範囲にわたって、震度4以上の地震を記録し、今の時間、23時28分現在、震度3以上の余震が14回も発生している。竿の中には震度6強の揺れが二回も含まれている。

震源地が浅い特徴である。活断層がこの地帯に走つており、地震は横ずれ断層型のことである。地震によって各地に家屋の倒壊や火災が発生したりして、多くの被害が発生している様様で、正

確な情報はつかめない状況である。報道に依れば警察、消防、自衛隊が出動して懸命な救助、救援活動を行つていているとのことである。ふと阪神淡路大震災のことが頭によぎった。

地震発生地域の住民に対しては、先ず身の安全を確かめ、慌てた行動をとらないことである。防災上の注意が必要である。家屋の倒壊や、土砂災害の発生しやすい場所には近づかないことである。普段の災害訓練で覚えている対応を以て、この緊急時に臨み、先ず人的被害を食い止めることが大切である。

政府は直ちに官邸内に、緊急災害対策本部を設置して安倍首相が陣頭指揮にあたつてている。夜間の発生であり、情報の入手が極めて困難な状況であるが、官民一体となつて救出、救援活動に取り組んでいいこどうではないか。震度4以上の余震はこれから一週間以上、頻繁に続くとの観測が気象庁から発表された。心配であり、不安である。一層の警戒が必要である。夜が明けてみると周辺の

被害状況は確かめ得ないが、迅速、適切な対応をお願いしたい。近くの、川内原発、玄海、伊方と云つた原発基地は、幸い今のところ被害を受けていない模様である。一般市民生活の被害の拡大が予想されて、尚心配である。倒壊家屋の下敷きになつている人たちが10名ほど確認されている模様であるが、一刻も早く救出されることを祈るばかりである。

4月14日

熊本に震度七の地震なり活断層に重なり起きぬおおなるの激しく襲ひ地の揺れにおののく人の逃げ惑ひけり
震度七地震に揺れる熊本のかの天守閣も荒れにけるかな
おおなるの余震に怯ゆ熊本の活断層の横にずれしと
活断層幾層にも揺れこの先の起きぬ頻度に不安抱きぬ

倒壊の恐れありし家を避け身を安全な場所に置くべし
この度の地震に似たる地の揺れの日本各地に在りし定めに
墨の世に映し出されし天守閣屋根の瓦も滑り落ちけり
しやちほこも落ちて行方の知らずとも地震の搖れをあらは示しぬ

慈悲深きほとけは深く衆生をあはれみ救ひ助けたまへり

被災者の救助・救援活動の素早く望み夜の深みゆくずれ落つ屋根の下に赤子いて助け求める母の声なり

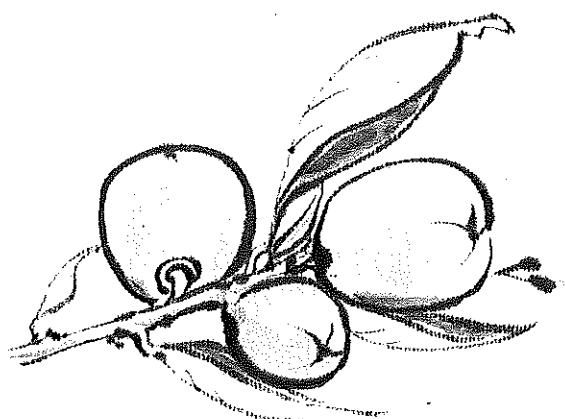
慈悲ふかきイエスはこの世の貧しさをあはれみ皆を癒したまへり
被災者のたつときいのち救はむと夜をば徹して皆がつとめり

川内の原発基地をはじめとし玄海、伊方の基地は
事なき

熊本の活断層の震源地北と東に移りゆくかも
震度七余震の絶えず続く夜をいかで過ごさむ被
災地の子ら

一刻も早く地の揺れ収まりて安寧のとき授け給
へや

4月15日 零時



作品 関根常雄

恩讐^{ミサカ}を超えて

ケリー国務長官の広島訪問

日本は戦争で、人類史上最も悲劇な原爆の投下を受けた唯一の被災国である。その日本でG7・世界の主要7か国外相会議が10日から11日にかけて原爆被災地の広島で行われた。厳戒態勢の中、無事に会議を終えて「広島宣言」を採択して閉幕した。宣言では「広島及び長崎の人々は、「原爆投下による極めて甚大な壊滅と非人間的な苦難を経験した」と核兵器使用の悲劇の悲惨なことを指摘した。しかしながらこの点に関連して会議では、世界の中で核を持つ国と、核を持たない国との意見の溝を埋めるまでには至らず、微妙な表現を以て苦渋の宣言を創案する結果にもなっている。つまり核の被災と脅威を経験した日本を始め、核を持たない国々が主張してきた「核兵器の非人道性」といった当然で当たり前な表現がなされなかつた。残念ながら、それを根拠に核兵器の法的な禁止を盛り込んで、究極の核廃絶を訴

える」とはできなかつたのである。

宣言では、核使用の保有状況を公表するなどの透明性を高めることは、世界の認識を高めるうえで重要である。特に中国の核保有量は判然としない部分もあつて名指しはしなかつたものの、これを各国の責務としたことは重要であつた。

複雑な国際情勢の状況にかんがみ、大国の思惑は致し方ないとしても、われわれの目的は、世界がこそつて核兵器使用の禁止、そして核兵器廃絶にまで持つていくこところに、人類の英知の發揮を示すことが出来ると確信しているからである。そういうでないといつまでも核の抑止力に依存する世界の大勢と状況は、依然として変わらないままになつてしまふからである。世界平和の実現は、そうした信念と理念から始まらなければならない。被爆国日本での、別けても画期的な広島での開催であつただけに、勇気を持った宣言が行われてもらいたかつたと思うが、しかし一方で核兵器のない世界を目指すという大きな目的の努力を払つ

ていく」とで、世界の、特に核保有国の認識が一致したことは有意義な前進であった。たゆましく一步一歩前進していくことが必要である。今回、原爆被災地の広島で宣言がなされたこと 자체が画期的な出来事であつた。

今回、米国の国務長官のケリー氏が初めて日本の原爆被災地である広島を訪れてくれたことは画期的であつた。次にはオバマ大統領が広島を訪ねて、犠牲となつた慰靈碑に献花をする道筋を付けようと努力して居るようである。是非そうした方向に日米間の関係が建設的理解のもとに今後とも発展拡大していくことを願つている。そして米国をはじめとした世界主要7か国が、悲惨な慘状を原爆被災地の広島で、核廃絶の道を模索しえきる資料館にもよつておらえた。核使用の結果がどんな悲惨なものとして人類にとどめを刺すものかを目の当たりにして、等しく見聞できたことであつたに違ひない。これが有意義な平和への切実な道の起点となる出来事になれば、人類の英

知の更なる一步となるであろう。

原爆の投下については、加害者は米国であり、被害者は日本であるということは冷厳たる事実である。互いに苦い経験となつて70年が過ぎた。まさに「恩讐を超えて」、お互いに信頼関係に立つて助け合い、それぞれ発展の道を歩んできたことは希有な歴史的事実である。その間、相互理解も進み、協力関係に立つてきたことは實に幸いなことであつた。それを成果に更なる発展の道を邁進し、以て将来の世界の平和に挺身し行く」とこそ我々に、我々両国に課せられた人類の崇高な目的であり、歴史的使命だと確信して止まないところである。

私は、「こうしたこととしたためたいと思い、いつたん床に入つたが、気が高ぶつて思念していたら、無為に時間が過ぎて行くばかりであつた。思ふ事つて深夜の3時にペンを執りパソコンに向かい、これを書いて納得し、氣を静めてベットに寝入つた次第である。

世界経済激震の震源地、

絶え間なく降りしく花の下にゐて真砂の星をあ

びゆ心地す

よどみなく続けて詠みし和歌ゆへに己れながら
によしとうなづく

中国の上海でのG20会議で27、28の両日にかけて開かれているG20、主要20ヶ国財務相、中央銀行総裁会議が、29日に無事、閉幕したが。中国が議長国を務めた。主要となつた議題は、今の世界的に激しく繰り返す不安定な金融市場についてであつた。各国とも、こうした事態に対しても、あらゆる政策を総動員して、これが安定化に努めるところで一致し、その趣旨を盛り込んだ力強い共同声明を発表した。とかく国際的な事案となると大國同士が、米・欧と、中・ロとの間での意見が揃わない傾向があつて、会議の成り行きが懸念されていた。こうした失望的推測をして26日の中国上海での株式市場は6%強の急落をしてその日の取引を終えた。幸いにして会議では、ロシアを始め、米・EUやアジア、アフリカ諸国をふくめ全会一致の共同採択にこぎ着けられた。中国の存在感がここでも示された形であるが、何かと複雑

な国内事情があるにしても単なるパフォーマンスにとどまらず、現実的な政策で中国が国際信義を重んじた積極的で透明性のある行動に出でくれることが望まれる。

思うに、国際政治面で何かと意見対立する構図の中で、今日ほど国際協調と協力体制が求められるといふことはない。各国が、とりわけ経済大国を以て住むる国々が、足並みをそろえて問題解決に努力していくことは、国際紛争をなくして世界平和と秩序を目指すうえでの大きな前進である。100%の成果を求める」とは至難の業であるが、少しでも解決への道筋を示して、それに向かって各国が共同して歩調を合わせて行くことが、極めて現実的であることは言うまでもない。会議の結果は大いに歓迎すべきことであった。北朝鮮にしてもそうであるが、特にシリアの内戦を中心として依然としてISの攻撃が続く中、そしてなお中東諸国・地域間の対立・紛争が続く中で米・EUと中・ロの大国間の足並みがそろわない状況であることは致し方ないが、深刻な度合いはかなり顕

つたが、今回、世界的な経済問題で共通した認識を得て、これからの行動の指針を得たことは大きな進歩であった。政治問題を解決するにしても、根本において経済が絡んでいるので、そうした点で意見の一一致を見た場合には、政治的紛争も、問題克服も繋がっていくことは自明の理である。世界金融事情の安定化に向けた認識が共通することで意見の一一致を見ることが出来、朗報であった。一つでもいいから、何か互いに良い点で共通しえることがあれば、それだけ関係国の絆が保てるということで、世界のスキームが崩れ落ちるという危機的状況は回避できるからである。

昨今の状況を見ると短期的、長期的観測で非常に憂慮すべき要素をはらんでいたがゆえに、そうした混乱の思惑は少なからず払拭できたことは素晴らしい成果であったと評価している。本欄では2年前から中国经济の減速を憂慮したところを指摘してきたし、今もって先行き不透明感があることは致し方ないが、深刻な度合いはかなり顕

在化したものである。日本がかつて経験したように金融機関の不良債権が大量に発生している点である。リーマンショックを緩和するために中国当局は大量の資金を市場に供給した。それが資源の買いあさりや、不動産価格の高騰を招き、例えば国内に野放図に建築されていつた高層マンションが金融緊縮のあおりを食つて買い手がつかずに出置されたままの廃墟となつたところが万とある。日本が辿つてきた道を繰り返す現状である。経済大国の中国からも、大量の資金が海外に流れ出しているし、そうした懸念の上に、原油の値下がりが、産油国や新興国の経済を直撃していること、就中、アメリカの金利引き上げ観測で、そうした国々から資金の引き上げを引き起こしている状況があつて、資金の大量移動が始まっていることは大きな課題である。これをいかに食い止めて行くかが、国際協調の狙いでもある。今回の国際会議では、強力な財政出動と、構造改革の問題が見送られることは残念な気がする。これは

次回に開かれるG20までに、各国が打開策を提起すること終わった。

核ミサイルで北朝鮮への強化された更なる強力な制裁措置、シリア内戦で米・ロが停戦に向けた合意成立と実施など、今まで懸念されていた事案が解決に向けて一歩一歩進んできていることも朗報である。繰り返し言つてきていることであるが、大量の悲惨な難民問題を解消なくして、人類の英知を云々する資格はない。ナチスヒトラーなどの残虐性を繰り返す人類の愚かさは如何ともしがたいが、今もつてそれに等しい行為が国際社会で行われていることは人類にとつて恥であり、なんとしてもシリア問題、アサドの畜行を止め、難民の発生を根絶しなければならない。人道上許しがたいことである。一方南沙諸島での中国の軍事進出については尚、予断を許さない状況にありながら、いまのところ米・中が互いに自制しながら制し合う状況になつていて、解決すべき課題は沢山あるが、着実に、冷静に事態を凝

視して、世界の指導者が努力されることを願うのみである。

そうでないと、今アメリカ大統領選の予備選挙が白熱しているが、過激な発言を繰り返すトランプ氏が、泡沫候補から有力候補にのし上がつてしまっている。混乱と混沌の中から、得てして過激な指導者が受けるような危険な風潮が蔓延してくるものである。民衆の不満が増幅してくると、そうした候補者にうつぶん晴らしに人気が集中して、従来型の政治家から離れた奇想天外の指導者が力を増していくのである。トランプはそうした意味で今のアメリカの内在する矛盾と不満が噴き出しているとみてもよい。トランプの人気台頭を風刺的に見るのは誤りである。爆発的に大きな波となつてうねつてくることもありうる。そうした時、国民が如何にこれを受け止めるか、当事者がいかに軌道修正して現実的論議を展開していくかが注目である。「偉大なアメリカを取り戻す」というキャッチフレーズがトランプの宣伝文句

だが、「偉大なアメリカを取り戻す必要はない」と云つたのは、ヒラリークリントンである。今、「アメリカは偉大である」と打ちかえした。クリントンも実力を発揮し手來ている。おそらく両者の対決場面となるかもしない。いろいろな観点があるが、両方に言い分があることは確かである。サンダースが云うように現実は確かに富の偏在は顕著であり、例えばアメリカの富の99%は、1%の富裕層に牛耳られているということからして、国民の間に不平不満が噴き出るには合点がいく。活力を發揮し、自由で創意工夫を以てイノベーションに取り組み、企業家精神を発揮する経済社会構造の進んだ国こそ、格差社会が進んでいく傾向にある。自由競争社会を是とする国では、競争こそが経済社会の進歩と発展、そして成長持続の原動力となる故、強者はますます強く、弱者はますます弱い立場になつていく傾向は避けがたい。だからこそ近代経済の分野においても厚生経済学が、ピグーをはじめとして広く研究されて

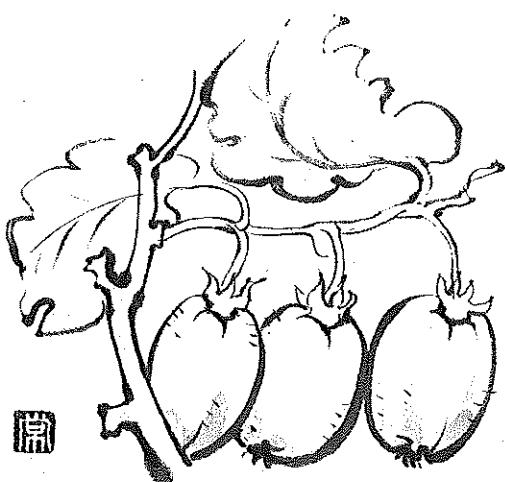
きでいる理由はそこにある。問題はこの不平等がもたらす顕著な格差社会をいかに是正していくか、富の不平等について如何に所得の再配分を行けて行くか、昔からの難問である。

貧富の格差の弊害を除去し、貧困層の救済にいかに手を打つていくか、そして自由で活力ある社会の構築にいかに英知と勇気を發揮していくか、アメリカンドリームの持ち味を国家の目印として輝きを發揮せしめて行く工夫が必要がある。極端な事例になつて論評の余地がないが、今、大統領選挙の予備選が行われつつあるアメリカの自由・民主主義社会と、一党支配による中国共産党の年次党大会の模様を比較すると、人間的な深みの味わいにも、組織、仕組みの楽しさが歴然である。

ところでG20の会議が終わり共同声明が採択されて無事に終わつたことを歓迎してか、週明けの東京株式市場は期待する円安、株高となつて会議の声明を好感した感じである。取り敢えず目

先の不安材料が払拭されて、投資家の安心買いが入つたようである。今日のところはめでたしめでたしと云うところである。

3月1日



作品 関根常雄

時局論壇

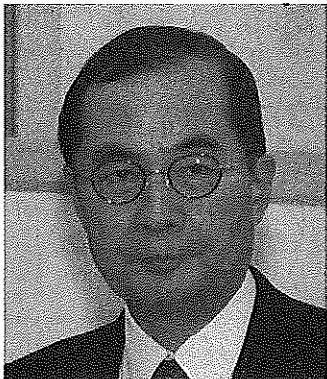
格差拡大、価値創造力奪う

技術革新、成長に必須

非正規の待遇改善を急げ

東京大学教授

吉川 洋



戦後70年。長く続いた東西両陣営の対立が社会主義の崩壊で幕を引き、世界は調和に満ちた新たな時代を迎えるという楽觀が生まれた。実際、世界一の人口を擁する中国は開放政策を通じてグローバル経済の一員となつたし、欧洲では単一通貨ユーロの下、真の歐州共同体が誕生したかにみえた。しかし21世紀もはや15年が経過した今、こうした期待は跡形もなく壊れ、人々は世界が、そして自分たちの暮らす社会が、分断の時代にあることを実感している。

分断の様相は様々で、原因も一つではない。しかし2015年11月にパリで起きた同時テロでも、背後にある原因の一つに経済格差があつたことは明らかだ。歴史を振り返れば、戦前の日本とドイツの軍国主義の背景にも著しい経済格差があつた。いつの時代、どこの国でも、度を越した格差は、社会にとって極めて危険な毒薬である。

* * * *

残念なことに、現在多くの世界には大きな経済格差が存在する。例えば1人当たり国内総生産(GDP)は、モナコの17万3370ドルからソマリアの130ドルまで1300倍の開きがある(13年国連統計)。個人の資産格差はもつと大きい。米誌フォーブスの世界長者番付によると、15年の世界一はビル・ゲイツ氏で、その資産は792億ドル(約9兆5千億円)。ソマリアの平均所得と比べると6億倍だ。

寿命の格差もある。世界一の最長寿国であるわが国の平均寿命は84歳だが、シェラレオネではいまだに48歳だ(15年世界保健統計)。

14年にはフランスの経済学者トマ・ピケティ氏が、金持ちはますます金持ちに、貧しい人はいつもでも貧しいのが資本主義の定めだという議論で世界中の話題をさらった。19世紀末から20世紀の初め、どの先進国でも大きな経済格差が存在した。しかも2つの大戦を経て、戦後は戦前に比べはるかに平等化が進んだ。それが今、世界

中でまた「格差」が大きな問題となっている。日本も例外ではない。

現代の格差を考えるには、過去の歴史を振り返ることから始めなければならない。日本では戦後の財閥解体、農地改革、インフレーションで平等化が進んだ。それでもなお今よりはるかに大きい格差が存在した。高度成長が始まる直前の1950年には、働く日本人の半数は第1次産業に従事していた。農業の生産性は近代的な工業部門の10分の1程度でありたといわれる。それは農村と都市の間に大きな所得格差を生み出した。

50年代半ばから年平均の実質経済成長率が10%という高度成長が始まる。「神武天皇以来」といわれた大型景気にわく57年、経済学者の有沢広巳は、「二重構造」こそ日本経済の特質だと指摘した。大企業と中小企業、近代産業と伝統産業の間に存在する格差をこのように解消するか。

この問題を巡って59年、当時、岸内閣の通産

相だつた池田勇人と一橋大学の都留重人の間で論争が展開された。「所得倍増計画」を掲げる池田を、都留は「経済成長より格差解消が先」と批判した。こうした批判は今でもなされる。批判に對して池田は、格差を解消する1番の方策は経済成長だと答えた。

映画「ALWAY'S三丁目の夕日」に描かれた60年代の高度成長は、池田が描いたビジョン通り所得の平等化をもたらした。集団就職などを通して若者が生産性の低い農業から生産性の高い近代的な商工業部門へ移動したこと、成長の果実がブルーカラーも含めサラリーマンに広く還元されたことで、平準化が進んだ。所得分配の不平等度を表すジニ係数は80年ごろまで低下。70年ごろには「1億総中流」というフレーズが誕生した。

* * * *

転機が訪れたのは80年代である。80年代後半のバブルは、地価・株価の高騰により「持てる者」を生み出した。例えば、87～91年の土地売買を「国民経済計算」でみると、家計の売り越しが64兆円、企業の買い越しが41兆円だ。家計は高値で土地を企業に売ったが、こうして売却益を得た家計は、全体からみれば少數であつたに違いない。

80年代以降、経済格差が拡大した原因としてはさらに対重要なことがある。第1は高齢化の進行である。若者100万人と比べ、高齢者100万人は所得・資産・健康などグループの中でばらつきが大きい。従つて社会全体で高齢者の比率が上昇すると、格差は広がる。最後のセーフティネット（安全網）といわれる生活保護の受給者も、約半数は高齢者世帯だ（厚生労働省「生活保護の被保護者調査」）。

格差拡大の原因は高齢化だけではない。現役世代の間でも格差が拡大してきた。一つは、非正規

労働者の増大だ。30年前には6人に1人だった

非正規労働者は、今や全体の4割近く。女性の方が非正規率は高いが、男性でも15～24歳の若年層では25%が非正規だ（総務省「労働力調査」、学生の就業者は除く）。

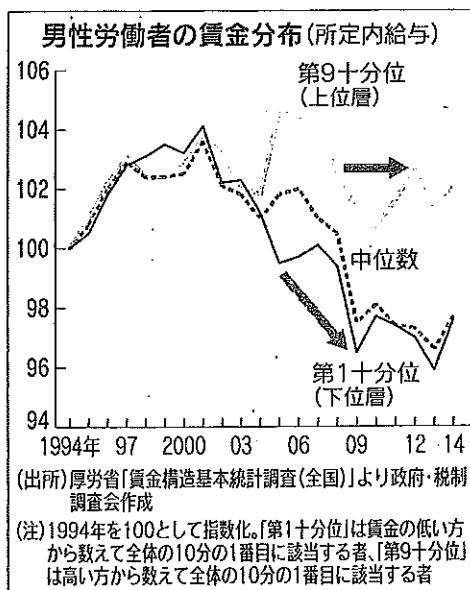
正規と非正規の労働者の賃金格差は、若いうちは小さいが、年齢とともに拡大し、働き盛りの40～50代には男女とも2倍以上の差が生まれる（厚労省「賃金構造調査」における「一般労働者」、短時間労働者は含まず）。30代前半の男性労働者について有配偶率をみると、正規雇用では60%だが、非正規では27%にとどまる。非正規雇用の下での経済的な困難が結婚を阻んでいると考えられる。

97～98年の金融危機後、00年代には名目賃金の下落が本格的に始まり、これが金融政策では容易に解決できないデフレを生み出した。しかも図にある通り、賃金低下は相対的に貧しい人大きかった。こうして過去20年で「1億総中流」

社会は崩壊した。

* * *

格差の拡大を止め、問題を解決するには、何が必要か。「防波堤」である社会保障制度を継続可能なものとする。教育の機会均等を確保する。こうしたことは不可欠だが、いわゆる「再分配政策」だけでは十分でない。



平均寿命が80歳を超える超高齢社会で多くの高齢者が安心して暮らすには、お金を再分配するだけでなく、医療、介護、住宅、交通、流通など広範な分野で新しいシステムが必要とされる高齢者の安心した暮らしを可能にする革新的なイノベーション（技術革新）が求められている。もとよりそれは一つのモノで達成できるものではなく、各種サービスと組み合わせたものだろう。

はイノベーションであり、それは人が行うものだからだ。「恒産なき者は恒心なし」という。拡大する格差の下で働く人々の心が落ち着きを失えば、社会全体として、新しい価値を創造する力は衰弱する。格差は、分配上の公正といふ観点から問題であるだけではなく、日本経済の将来にとつても大敵なのである。

なく、各種サービスと組み合わせたものだらう。新しいシステムは、高齢者が必要とする様々なモノやサービスの単価を飛躍的に引き下げることで、実質的な格差を縮小するはずである。

一方、働く現役世代の格差を縮小するために何よりも必要なのは、持続的な経済成長である。90年代初頭のバブル崩壊以来、日本企業が追い求めてきたのはコストの削減だった。結果としてそれは、非正規労働者の拡大、賃金の下落を通して

こうした経済のあり方は決して最善のものではない。先進国経済の成長にとって最も重要なのは

吉
三
三

よしかわ・ひろし 1951年生まれ。エール
大博士。専門はマクロ経済学。

時局論壇

米大統領選が映すもの
共和党、原理・価値観の危機
国際秩序揺らぐ恐れ

東京大学教授

久保 文明



現年、米国中のエリートや知識人が頭を抱えて
いると言つて過言ではない。ドナルド・トランプ
氏は共和党の大統領候補指名争いで明らかに優
位に立つてゐる。全く政治経験のない人物が、い
きなり大統領の座をつかがおうとしている。昨夏
に同氏の支持率が上昇して以来、米国で高名な政
治評論家のほとんどがトランプ氏の失速を予想
してきただが、ことごとく外れてきた。

* * *

同氏は共和党内でどんな有権者からどんな理
由で支持されているのか。3月15日のフロリダ
州での共和党予備選挙の出口調査を例にとる。ト
ランプ氏は46%を獲得し、同州出身のマルコ・
ルビオ氏(27%)、テッド・クルーズ氏(17%)、
ジョン・ケーシック氏(7%)に大差を付けた。
ルビオ氏は直後に撤退した。

トランプ氏は高卒以下の有権者で46%、若干

の大学教育を受けた層で54%を獲得。大卒者の46%、大学院修了者の35%の支持も得ており、もはや低学歴層の候補とは言えない。所得やイデオロギーの違いでみても結果に大きな差はない。党内すべての有権者集団で強みを発揮している。

世俗派のトランプ氏は、宗教保守層を基盤とするクルーズ氏も圧倒した。有権者が重視する争点では、移民と答えた層（全体の12%）でトランプ氏は60%という高い支持を獲得。経済・雇用テロ、政府支出などを重視する有権者でも40%以上の支持を得た。

特にトランプ氏支持の特徴が浮かび上がるのが、候補者の特色についての回答だ（表参照）。

「率直に発言する」（23%の有権者が重視）ではトランプ氏が80%を獲得。「変化を実現できる」（同28%）では52%、「当選可能性」（同10%）では51%を得ており、「自分と価値観を共有」（同34%）でルビオ氏に首位を譲ったにすぎない。

次の大統領は「経験のある政治家」（40%が同意）か「エスタブリッシュメント（支配階級）の外から」（同52%）かという二者択一では、後者でトランプ氏が74%の支持を得る一方、前者でルビオ氏が51%を獲得。また、イスラム教徒の一時的入国禁止措置については64%の回

共和党候補者の特色でみた支持率 （3月15日のフロリダ州予備選での出口調査、単位%）	最も重視する条件（カッコ内は各条件を重視する有権者の割合）			
	当選可能性（10%）	自分と価値観を共有（34%）	率直に発言する（23%）	変化を実現できる（28%）
ベン・カーソン	0	1	1	1
ティッド・クルーズ	11	28	7	15
ジョン・ケーシック	5	13	2	5
マルコ・ルビオ	33	37	8	26
ドナルド・トランプ	51	19	80	52
その他・無回答	—	2	2	1

(出所) CNN 2016 Election Center, Exit Poll

答者が賛成し、26%が反対しているが、賛成者の中ですランプ氏は59%の支持を受け、反対者ではルビオ氏が42%を得た。

米国政治では大富豪のイメージが日本と異なっている。社会的成功者とみられるだけでなく、ランプ氏が政治献金に頼らず、自己資金で選挙戦を開催していることが評価されている。彼には、

利益団体から政治献金をもらわずに済む、だから大きな改革も実現できると多くの人は期待する。ちなみに無数の小口献金に頼る民主党のベニー・サンダース氏の選挙戦も、似た評価を獲得している。

歯にきぬ着せぬ物言いも、支持者にとってランプ氏の大きな魅力である。メキシコからの不法移民には麻薬中毒者や犯罪者が含まれていると語り、その公約の柱はメキシコとの国境に壁を築きその費用をメキシコ政府に支払わせるというもので、極めて単純明快である。差別や偏見に対する「政治的な適切さ（political

correctness）」には意図的に挑戦している。

3月22日のブリュッセルの連続テロの際にも、「オバマ米大統領その他全員が政治的適切さにこだわりすぎるためにテロリスト集団は育つて来た」とツイートしている。

* * * *

トランプ旋風の土壤として経済の停滞が一つの原因なのは間違いない。1999年から米国の家計の実質所得の中位値は上がっていない。ただし、これらに加えて共和党に特有の理由も存在する。

より直接的な理由は不法移民問題である。現在米国には1100万人以上の不法移民が存在すると推測される。彼らへの反発は、中低所得者層に限らず、より広く共和党支持者に拡散している。2005年末、共和党多数の連邦議会下院はほとんどが共和党のみの賛成票で、すでに国内に居住

する不法移民とその家族に対する罰則の強化、メキシコとの国境に新たに障壁を追加・新設することなどを主な内容とする法案を可決した。これは廃案となつたが、この一件はすでに10年前からトランプ氏に近い案が共和党下院議員団により強く支持されていたことを示している。

そのような中で、09年に保守派草の根運動「茶会（Tee Party）」が台頭した。税金を使っての金融機関救済および皆保険化を目指すオバマケアへの反発を中心に訴え、翌年多数の新入議員を共和党から当選させた。茶会は党内予備選挙を通じて、多数の有能なベテラン現職議員に挑戦し落選させた。代わって当選した新人議員には、政治経験を持たず、品位を欠き、現実離れした極端な政策を語るもののが多数含まれていた。

共和党の既成政治に対する茶会の反乱は、トランプ現象の前触れであった。ただし、茶会はより徹底した限定政府を求める方向に導かれていたが、そこに滯留した怒りは現在トランプ氏により、

不法移民、共和党指導部、連邦政府に向けられている。これまでの共和党指導者は選挙で聞こえたよい公約をしてきたが、当選後には不法移民取り締まりも含めて、約束をほとんど実現していないと多くの共和党員は感じ、怒っている。

トランプ氏の台頭は共和党にとって危機である。限定期制政府、信仰重視、積極的な外交といった党が立脚する原理と価値観を覆しかねない。同時に、共和国アメリカにとつても危機であらう。民族的多様性の尊重など、米国が立脚する価値観を脅かしている。

さらに言えば、トランプ氏は国際秩序にとつても脅威だろう。国際社会での米国の権威が失墜する」とは確実だ。日米安全保障条約についても事実誤認と思い込みから不公平性を語り、米軍撤退の脅しをかけている。中国についてもレトリック（修辞）は強硬だが、中国を人権問題あるいは安全保障上の脅威として語ることはほとんどない。そもそも、日中両国について同盟国と非同盟国

の区別をしない国際情勢認識は奇異である。トランプ氏は外交についての原則を、通商問題を除くと持たず、基本的にはお金で妥協可能だと考えている。

* * * *

トランプ氏の共和党候補者指名獲得の行方はどうか。獲得代議員が過半数に及ばない可能性はあるが、今や党指導部や候補者の代議員統率力は大きくなく、指名阻止は容易でない。本選の仮想レースについての世論調査では民主党候補が優位に立っているが、トランプ氏は共和党地盤州を固めたらえ、無党派・民主党の白人労働者層に浸透することにより、ペンシルベニア、オハイオ、ミシガンなどの州で善戦する可能性もある。

民主党側にも不安要素がある。例えばCBSニュースの調査では「好感がもてない」という非好感度で、トランプ氏は57%だがヒラリー・クリ

ントン氏も52%だ。トランプ氏の敗北は確定ではない。

トランプ現象はヒスパニック系に対する偏見に訴えて成長してきた。それはエリート層や既成政治家、「政治的な適切さ」に対する怒れる非エリート層による大規模な反乱だった。現在共和党エリート層の一部もトランプ氏支持になびいている。08年の大統領選挙では米国はオバマ氏を当選させて寛容な顔を見せたが、今年は異なる側面をみせつづる。われわれは、どちらも米国の素顔の一部であることを認識せねばならない。
くぼ・ふみあき 56年生まれ。東京大法卒、同大法学博士。専門は米国政治。

久保文明

時局論壇

政治家の歴史観

「植民地統治」複雑な実情

史実踏まえ謙虚に学ぶ

慶應大学教授
細谷 雄一



昨年12月22日、自民党本部で、安倍首相（自民党総裁）直属の「歴史を学び未来を考える本部」の初会合が開かれた。自民党所属国會議員を中心とする対象とし、講師を招いた会合をこれから重ね、歴史を学ぶ機会を提供することになる。

本部長として全体を統括する谷垣幹事長は、「随より始めよ。我々が勉強しないで『近現代史教育を進めろ』と言つてはいけない」と語り、「我々も謙虚に歴史学の成果を学ぶことが大事ではないか」と論じた。また、本部長代理の稻田政調会長も「客観的な事実を基に、政治家が何を反省し、どういった歴史観をもつかが重要だ」と述べている。両氏の発言は、歴史に対し、権力者といえども謙虚な姿勢を示す重要性を明確にしている。

私は、この歴史本部にアドバイザーとして参加することになった。多くの議員が、忙しくゆっくりと読書をする時間が取れない中で、歴史をより深く学びたいと欲する情熱を強く感じ、それに敬

意を抱いた。

参加した議員たちからはいくつかの真摯な質問や要望が寄せられた。その中で、佐藤正久参院議員が、「国民に誤解のある外地（植民地）政策を取り上げるべきだ」と述べたのが印象的であった。重要な問題だと思う。

戦争以上に、植民地統治はより複雑であり、難しい歴史認識問題となつていて。私自身も、日本の植民地統治をどのように考えるべきかについて思索を巡らせてきた。そして、全く予期せぬ場所、予期せぬ形で、この問題を考える上で重要な示唆を得た。太平洋に浮かぶ、南洋諸島のパラオである。

年来年始、私はパラオに滞在し、その際に太平洋戦争時の激戦の地であったペリリュー島を訪れた。この小さな島で、1944年9月から11月までの間に、日本軍は米軍の猛攻にさらされて、おびただしい数の犠牲が生じた。

天皇、皇后両陛下は昨年4月9日、このペリリュー島を訪問されて、島の南端にある慰靈碑に白菊を手向け、約1万人の犠牲者を慰靈された。その様子は報道され、ペリリュー島の名前も広く知られるようになった。

私自身もぜひ、この激戦の島を自分の目で見たかった。天皇、皇后両陛下とほぼ同じルートを回り、日本陸軍の95式軽戦車や墜落した零戦の残骸を目にして、戦争の事実がむき出しで保存されている残酷な光景に息をのんだ。

当時の日本軍弾薬庫は、米軍による激しい砲火にさらされ、悲惨な傷痕を残すコンクリートの塊となつていて。建物には改修が加えられ、今はペリリュー戦争博物館として、日米両国の兵士の遺品や、日本軍が防衛のために用いた地対空砲などが展示されている。

その展示品を眺めている時、佐藤正久参院議員の名前を見つけた。展示品を収集・展示する上で協力したことへの謝意がつづられたプレートに、佐藤議員の名前が含まれていたのだ。前述した自

民党歴史本部初会合での日本の植民地統治に関する佐藤議員の発言は、おそらくはこの戦前のパラオ統治をも想定しながら述べられたのだろう。

パラオのかつての首都コロールに、戦前の日本は南洋厅を設置して、南洋諸島の統治の拠点とした。戦前の日本のパラオ統治が、パラオの人々におおむね歓迎されて、深い友愛の絆が存在したことは、よく知られている。実際にパラオを訪問して現地の人々と会話する中で、日本への親しみの情を感じた。天皇、皇后両陛下のご訪問を記念して、4月9日は現地では祝日となっている。

植民地のそれぞれの土地で、異なる関係、経験、記憶が生まれ、多様な歴史が刻まれている。あらゆる「植民地統治」を一般化し、单一の事象として論じるには無理があるのだろう。

私は、パラオを訪れる1か月ほど前には、新しく改装され、展示スペースが拡大したソウルにある安重根記念館を訪問した。安重根とは、初代韓国統監の伊藤博文を暗殺した朝鮮独立運動家だ。

強大なソ連軍と対峙^{たいじ}する中で日本軍の大陸支配拡大のための戦略拠点と化していた朝鮮半島では、日本の植民地統治はパラオとは異なる足跡を残した。

朝鮮半島における植民地統治とパラオの南洋厅を通じた統治には、大きな差異がある。それぞれの土地で実際に日本人が何をしたのか、そしてそれがどのように受け止められたのかを、歴史として謙虚に学ぶことが重要だと感じた。

実は、パラオを日本の「植民地」と呼ぶのは正確ではない。

第1次世界大戦時の1914年に日本海軍が南洋諸島を占領した後、19年のパリ講和会議においてこれらの島々は国際連盟のC式委任統治領となることが決められた。

委任統治領とは、「文明国」である日本が国際連盟からの委任統治として、パラオの人々に代わってこれらの島々を統治することを意味する。

国際的な規範として、新たな領土併合を禁止す

る潮流が誕生した後に、連盟常任理事国となつた日本政府もそれを尊重した。それゆえに、日本政府は南洋諸島での委任統治を誠実に履行し、現地の人々の生活水準の向上と経済振興のため多大に貢献した。住民にもおおむね歓迎された。

また、国際連盟規約第22条第5項では、委任統治地域の軍事利用を禁止していた。このため、南洋諸島では、朝鮮半島とは異なり、日本政府は民政に限定した統治を行つた。

国際連盟には毎年報告書を提出せねばならず、日本人はまじめにパラオの生活水準向上のための努力を続けた。パラオでの親日的な感情の起源はここにあるのだろう。

国際連盟委任統治地域として、非軍事化の原則の下で生活水準向上に尽力したパラオと朝鮮半島、そして台湾では意味合いが大きく異なる。従つて、植民地統治全体を謝罪したり、擁護したりすることは困難かもしれない。

パラオでの日本の統治の歴史は、戦間期におけ

る日本の国際協調主義の足跡を象徴するものだつた。そして、そこから逸脱したことが、戦前日本の過誤の始まりだつたのだ。歴史は、通常我々が考える以上に複雑である。その複雑さを無視して、自らの願望や主観のみで歴史を単純化すれば事実が歪められる。

日本において、国際社会に通用し、そしてより史実に基づいたバランスのとれた歴史認識が普及するよう期待したい。

ほそや・ゆういち 1971年生まれ。慶應大学院博士課程修了。専門は国際政治学、外交史。米プリンストン大客員研究員などを経て2010年から現職。著書に「歴史認識とは何か」など。

EUの夢と幻滅

好景気の徒花なのか

東京大学大学院教授

藤原 帰一



欧洲連合（EU）の発足を定めたマーストリヒト条約が調印された1992年からおよそ四半世紀、ヨーロッパの統合が大きな壁に面している。まず、経済統合が壁にぶつかった。他の地域機構と異なり、EUは貿易の自由化ばかりでなく共通通貨ユーロまで導入したが、その結果として、各国政府は通貨供給量を単独では調整することができなくなった。もし加盟国のひとつで経済危機が発生すれば、地域経済に波及する懸念がある。この、ポール・クルーガーマンが早くから指摘してきた共通通貨に伴う潜在的危険が、昨年のギリシャ経済危機によつて一気に表面化してしまった。人の移動の自由化もヨーロッパ統合の柱であるが、難民問題を契機に政策を続けることが難しくなつている。シリアなどから流入する難民に対する各国の政策には著しい違いがあるからだ。スロバキアやハンガリーなどの諸国は難民の入国規制に踏み切つた。ドイツのメルケル首相はEUがシリア難民の受け入れを認めるよう、率先して

ドイツの難民受け入れを表明したが、国内から厳しい反発を受け、政権を揺るがす事態となつた。

* * * *

危機に直面したEUの選択は、難民受け入れの後退だつた。3月8日、トルコ政府とEUは、30億ユーロにのぼる資金協力と引き換えにトルコ国外への難民流出を制限することに合意した。紛争によって住む土地を追われた人々がEUに入つてこないようにするため、巨額のお金をトルコ政府に支払つたと評されても仕方のない内容だ。

どうしてこんなことになつたのだろう。本来のヨーロッパ統合はヨーロッパが再び戦争に陥ることがないようにしようという不戦共同体の模索と不可分の関係にあつた。石炭・鉄鋼共同体の設立から統合が始まつたのもそのためである。だが、現在の欧州統合は、不戦共同体ではなく、2回の石油危機を経て傷ついたヨーロッパ経済を再建することが直接の引き金であつた。市場統合を進めることによつて地域経済の競争力の回復を図るのである。

当初は西欧諸国が市場統合の対象であつたが、マーストリヒト条約締結に至る過程が冷戦の終結期と重なつたことから、焦点は西欧ではなく、東欧諸国など新興経済圏の統合に移つていつた。旧共産圏諸国を迎えて、新興経済圏への投資拡大によつて歐州主要国の経済を支えるという構図がこうして生まれる。好況が続く限り、経済統合は合理的な政策だつた。

だが、景気が悪くなれば、新興経済圏は経済発展の足がかりではなく、逆に経済発展を阻害するリスクになつてしまふ。競争力の低い経済が政府だけでは危機に対処できないとき、EUによる資金供給に頼るほかに選択はない。そして、たとえばギリシャに大規模な経済支援を行つたところで、ギリシャが経済再建を実現する展望は暗い。

人の移動の自由化に経済的背景があつた。ドイツを典型とする低い出生率と恒常的な労働力不足に悩む西欧諸国の経済にとって、国外からの労働力受け入れは、特に景気が拡大する時期には魅力的な選択であった。

しかし、景気が後退に向かつた場合、移民が低所得層として国内のアンダークラスを構成し、治安を脅かすことになりかねない。まして中東などの紛争地域から流入した難民や移民のなかには、過激な武装組織に共鳴する人が含まれている可能性もある。ここでも、地域統合の推進が、経済発展の足がかりではなく、経済的、さらに政治的风险に変わってしまうものである。

既にイギリスではEU離脱が議論されている。市場統合と人の移動に対する疑問が大陸諸国でも強まっているのだから、もともとEU統合への懷疑的な意見が根強いイギリスでEU離脱が論じられることに不思議はない。仮にEUから離脱しなくとも、イギリスと大陸諸国との政策協力

が弱まることは避けられない。

* * *

ヨーロッパの統合には、政治における民主主義と経済における資本主義を共有する西欧諸国の中導により、東欧を含む地域全体の自由と繁栄を実現するという夢があった。この夢は、市場の自由化と民主主義の拡大が繁栄と平和を約束するという、国際政治における経済的リベラリズムに支えられていた。

だが、経済が後退するときに地域の統合を支えることは難しい。景気後退に対して実効的に対処する力を持ち、またその期待を寄せられるのは各の政府であつてEUではない。労働力の確保より治安維持が優先事項となれば移民の流入に反対する世論が生まれることも避けられない。移民排斥を求める右派政党の拡大はその表れである。ユーロッパの統合は好景気の徒花に過ぎなかつ

たのか。EUの求心力が問われている。

ふじわら・きいち、1956年生まれ。国際政治学者。東京大学大学院法学政治学研究科教授。専門は国際政治学。比較政治学。フィリピン政治研究。

藤原 崎一



作品 関根常雄

時局論壇

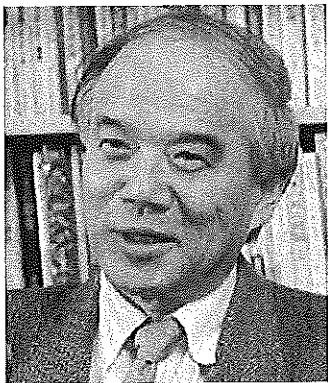
被災地支援 長期の視点で

福島の線量低下 急げ

災害の教訓 世界に発信を

豊橋技術科学大学学長

大西 隆



昨年10月に実施された国勢調査の結果を見て、改めて東日本大震災の深刻な影響を感じた方も多いのではないか。表に示すように、震災前の前回調査（2010年10月）と比べて、人口が10%以上減った市町村が岩手県と宮城県の被災地では各4、福島県の被災地では10に及んだ。

特に福島県では、6町村で人口減少率が100%、あるいはそれに近い値となつた。もちろん、避難指示区域に含まれ帰還できないからである。それでも、これまでの被災地の人口情報は住民基本台帳によるものだつたので、例えば仮設住宅住まいでも、元の市町村の住民として数えられていた。国勢調査では、まさに居住の実態が示された。筆者は、こうした人口減少下における地域の衰退の加速化が、東日本大震災や、今後懸念される南海トラフ地震など大規模自然災害の被害の特徴となるのではないかと考えている。つまり災害が、直接の被害に加えて自然減や社会減を加速す

ることで人口減がさらに進み、共助や公助に基づく地域の社会機能が維持できなくなる恐れである。

災害と人口減のダブルパンチで沈下していかないためには、地域社会がネットワークを強化して、お互いに助け合うことにより、不足する機能を満たしていくことがこれまで以上に重要なところ。

2010年から15年の人口減少率	
岩手県	大槌町 23.2%
	陸前高田市 15.2
	山田町 15.0
	野田村 10.9
宮城県	女川町 37.0
	南三陸町 29.0
	山元町 26.3
	気仙沼市 11.7
福島県	富岡町 100.0
	大熊町 100.0
	双葉町 100.0
	浪江町 100.0
	飯舘村 99.3
	葛尾村 98.8
	楢葉町 87.3
	川内村 28.3
	広野町 20.2
	南相馬市 18.5
	(注)被災地のうち減少率10%以上(出所)国勢調査

地震・津波災害から5年間が経過して、岩手県や宮城県の被災地では、集落が移転すべき高台造成が300カ所以上で実施され、防波堤・防潮堤の整備が進んでいる。次の大津波で大きな被害を出さないための復興事業である。

しかし事業が進むにつれ、既に他所で仕事と生活を再建していく宅地や災害公営住宅が整つても帰還しない人が少なくないことが分かつてきただ。加えて、高台居住の不便さや防潮堤が高く背後の町への圧迫感が強い、といった不満や不安が指摘されている。

防災施設により自然災害をある程度まで防ぐ、安全な場所に住む、さらに逃げられるようにする、という減災の考え方を貫くことは必要だ。しかし一方で、復興事業が、できるだけ被災者の日常生活を支えるものとなることが重要なのは当然である。海拔が低い地域でも、防潮堤に加えて、中

* * * *

高層建物の3階以上で暮らすといった安全な高さ確保を条件に、低地に住宅を建設して、にぎわいを取り戻すまちづくりを進める工夫が今こそ求められている。

* * * *

福島では、国と東京電力は原状あるいはそれに

近い状態に回復させることで、被災者や新たに被災地で活動しようとする人が、安心して暮らせるようにする責任があることを改めて明らかにして、達成への行程を示すべきである。

国は年間の積算線量が20ミリシーベルト以下の地域を避難指示区域解除の対象としている。しかし、これは科学者の国際的合意をもとに緊急時の防護対策の基準として定められたもので、平常時には追加被ばく量を年1ミリシーベルト以下にすることが求められる。政府はこの値を長期達成目標としているものの、居住地や山林の除染

をどのように進めて達成するのか行程を示していない。

これでは若い世代や子供のいる世帯が帰還する気になれないのも当然だ。現に被災市町村が復興庁や福島県と共同で実施する被災者世帯の意向調査では、福島第1原子力発電所に近い自治体では、半数以上の世帯が帰還しないことを決めていると答えていている。

被災地の原状回復は簡単な問題ではない。14年から15年7月まで筆者は、復興庁が設けた「福島1・2市町村の将来像に関する有識者検討会」に加わった。30年から40年先の地域の将来像を描いて、そこに到達する道を考えようという趣旨である。30～40年先を設定したのは、地域によっては原状回復がそれぐらい先になると考えたからである。

40年は長すぎるという実感はもつともである。優に世代交代が起きる年月である。このため検討会が想定した将来像の担い手は新世代や新

たに福島の被災地に職を求めてやつてくる人々である。

原発事故被災地の復興は容易ではなく、長期を要する。それだけに、現在ふるさとを離れている被災者の生活再建には、十分な多様性を容認して臨むことが欠かせない。事故に責任のある国と東電は、様々な場所で生活を再建する被災者に適切な補償と支援を継続することが必要である。また、東電の供給エリアをはじめ国民全体として、長期的な視点で被災者を支えることが引き続き求められよう。

検討会では、長期を要する復興でも、早い時期から、除染や廃炉など原発事故対策関連の技術開発を土台とした研究開発や産業振興が可能と考え、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想などで描かれた新産業開発を進めることを提案した。原発用に設置されている高圧の送電線網を活用し、再生可能エネルギーの供給地域として発展させていくことも産業振興とな

る。被災地にとつての新しい活動と担い手を、時間をかけて育成することが福島の復興につながる。

* * * *

なお厳しい現状にある被災地から災害と復興の教訓を学び、広く内外で応用していくとともに、災害大国であるわが国の課題である。15年3月に仙台市で第3回国連防災世界会議が開催され、187カ国から参加者が集まつた。自然災害に対する防災・減災の重要性が確認されると同時に、地震や津波検知、構造物の耐震化、緊急医療体制などの災害対策科学技術の発展と活用が強調された。

また15年には国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」、第21回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP21）でパリ協定が採択された。さらに、筆者が会長を務める日本学術会議は先月、世界のアカデミー代表を招いて会合を持

ち、今年5月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に向けて防災・減災への科学技術の応用を主

要7カ国（G7）首脳に訴えようとしている。

人類が70億人を超えて、それぞれが多くの人工的エネルギーと物質を使って活動することで、人類の存在と活動そのものが地球環境に影響を及ぼしており、災害の原因や遠因と指摘される場合もある。こうした議論の重要なポイントは、温暖化ガスを発生させない電気エネルギーをどのように方法で生産するかにある。

筆者は、できるだけ早い時期に原子力発電を終え、再生可能エネルギーを主力にする必要があるという東日本大震災直後に多くの日本人が抱いた思いは、貴重であり持続されるべきだと考えている。核分裂による莫大なエネルギーを制御する難しさや、事故が起きた際の想像を超えた長期にわたる被害を体験した日本人は、原子力発電に代わる電力供給を国内のみならず世界に普及させていく役割を果たすべきである。これも震災から

の重要な教訓である。

東日本大震災以降も、わが国は様々な自然災害に見舞われてきた。逆転の発想に立てば、人口減少時代は市街地の再編の好機でもある。人が減り家が減るので、危険な場所にある施設や集落を完全な場所へ移すための空間的なゆとりが生まれる。安全度の高い地域を示して、自治体は公共施設の移転を、各人は住宅の移転を、建て替える時に合わせてでもよいから、確実に進めていく長期的対策を共有することが災害に強い国土をつくることになる。

おおにし・たかし 1948年生まれ。東京大工学博士。専門は都市工学。東京大名誉教授。日本学術会議会長。

大一也
3月上

時局論壇

TPP批准

個別利害より大局的判断
広く恩恵技術革新呼ぶ

東京大学教授

伊藤 元重



日米など12か国が合意した環太平洋経済連携協定（TPP）の調印式が2月初め、ニュージーランドで行われた。日本が交渉参加を表明してから3年近くがたち、その間、日本では賛否の激しい議論が行われてきた。今後は、国会で批准を巡つて論議が続けられる。米国でも、TPPに反対を表明している大統領候補が多い。

通商交渉は、難しい国内政治の問題を伴う。貿易自由化によって悪影響を受けると警戒する業界や労働者は、強力な反対活動を展開する。日本の農業関係者がその典型だ。米国でも、自動車業界や労働組合などがTPPに反対する政治活動を行つてきた。

交渉がまとまつた後も、批准がスムーズに進むとは限らない。2007年6月に調印された米韓自由貿易協定（FTA）は、その後再交渉が行われ、議会で承認されたのは米国が2011年10月、韓国が同年11月。調印から4年以上かかった。米韓交渉に関わった韓国の外交官に「韓国はT

PPに参加するのか」と尋ねると、「各国のTP

P批准には相当な時間がかかるので、ゆっくり考
えればよい」との答えが返ってきた。

TPPが、アジア太平洋地域の将来の指向性を
決める重要な協定であることは、明らかだ。韓国
だけでなく、TPPへの参加意欲を示しているタ
イ、インドネシア、フィリピン、台湾なども加わ
れば、中国を除く大半の国・地域が加わるアジア
太平洋の巨大な経済連携が生まれる。その意義は
大きい。

米国では、極端な論陣を張る共和党のドナル
ド・トランプ候補のほか、テッド・クルーズ候補、
民主党のバーニー・サンダース候補がTPPに反
対している。民主党の最有力候補であるヒラリ
ー・クリントン氏も、現状のままでのTPPには
賛成できないと発言したのは気になる。大統領選
の最中に、組合票などを失いかねないTPP容認
発言はできないということだろう。オバマ大統領
の任期中に批准できない場合、展開は不透明にな

る。

かつて、1992年の大統領選で、北米自由貿
易協定（NAFTA）に前向きではなかつた夫の
ビル・クリントン氏は、大統領に就任するやいな
や、NAFTAの実現に動き出した。業界や組合
などの個別利害はさておき、米国の国益を大局的
に考えれば、大型の自由貿易協定は重要であると
考えたのだろう。来年就任する新大統領にも大局
的な判断を望みたい。

TPPが発効した後、日本経済にどのような恩
恵をもたらすのだろうか。

その恩恵の大きさは、伝統的な手法を使った國
内総生産（GDP）の推計値でどうかがうことがで
きる。様々な産業や経済主体がどのような影響を
受けるのかを試算して、GDPで測る経済全体の
規模がどの程度増えるのかを示すものだ。

2013年に日本政府は、TPPに参加すること
とで、GDPの約0・66%にあたる3・2兆円
程度の経済効果があるとの推計結果を発表した。

貿易自由化で関税が撤廃されたり、引き下げられたりして、海外の製品がより安価で購入できるほか、日本の輸出が拡大する効果などを評価した推計値だ。

ただ、これは何十年も前に確立された伝統的な推計手法を使っているのに対し、最近では新しい精緻な手法で計測が行われている。TPPに参加すれば、関税撤廃・引き下げの効果に加えて、日本の産業構造が変化し、それが日本経済の成長経路を変えていくことになる。そのような動きも考慮に入れれば、TPPの恩恵は伝統的な手法で推計する数字よりも、はるかに大きくなる。

この手法を採用した米ブランドイス大学のピーター・ペトリ教授らの推計によれば、TPPが発効してから13年で、日本のGDPは約2%引き上げられるという。GDPの規模では約10兆円に相当する。

発効してからすぐに大きな経済効果が得られるというよりも、10年、20年かけて、その影響がじわじわと浸透していく。

政策論議では、とりあえず直接的にどのようない利益や被害が出てくるのかという近視眼的な議論になりがちだ。しかし、TPPの影響への評価は、より長期的な産業や貿易の構造を決める存在として、とらえる必要がある。

15年末に内閣府が新たに出した推計結果も、新しい手法に基づくもので、2・6%（14兆円）という経済効果が出てきた。ペトリ教授の結果よりも、さらに大きな数字になつていて。

経済効果が膨らむのは、TPPが関税以外の様々な分野を対象にしていることが関係している。TPPで直接投資が拡大すれば、域内での産業の分業や貿易の流れにも大きな影響が及ぶ。産業界が「グローバル・バリューチェーン」（付加価値の向上につながる国際分業）と呼ぶものだ。これがさらに進化し、イノベーション（技術革新）活動も刺激される。

経済学で、新たな推計手法が頻繁に使われるよう

うになつてきたことは、20年以上前に発効した北米自由貿易協定（NAFTA）が影響している。多くの経済学者が、NAFTAによつて米国、カナダ、メキシコの経済が受けた影響を分析したが、その影響も経済効果も、当初考えられていたよりもはるかに大きいことが分かつてきた。

経済連携協定の影響としては、貿易の量が増えていくほかに、産業内の構造が変化して、より生産性の高い業者に集中が進むことも重要だ。例え

ば、日本でも TPP交渉に参加する流れと並行して、生産性の高いプロ農家の勢力拡大がみられる。こうした効果を、この点を指摘した元ハーバード大学教授のマーク・メリツツ氏にちなんでメリツツ効果と呼ぶ。要するに、貿易自由化は産業内の調整を加速させ、経済全体の生産性を高めるのだ。

グローバル化の動きは、日本の産業のイノベーションにも影響を及ぼす。一般的に、海外への貿易依存度が高い経済ほど、資本や労働を除いた技

術革新などによる成長力を測る「全要素生産性」が高くなる傾向があると言われる。

TPPの影響でさらに重要なのは、国民の意識が変わっていくことだろう。少子高齢化と人口減少という難題を抱える中で、内向き思考では経済は衰退する一方だ。より広い市場とチャンスが国外にあるということを、多くの国民が認識するべきだ。TPPをきっかけに、外向きの思考が広がるよう期待したい。

いとう・もとしげ 1951年生まれ。米ヒューストン大助教授などを経て93年から現職。著書に「東大名物教授の熱血セミナー 日本経済を『見通す』力」「伊藤元重が語るTPPの真実」など。

伊藤元重

自分と出会いう

「我—汝」の出会い、そ真の生

早稲田大学名誉教授

植田 重雄

ていることを二十代の終わりにしてはじめて知つた。六、七年かけて翻訳し、ボーマン師とも文通し、ヨーロッパへ研究に赴いたとき直接聲咳に接することができた。師はマルティン・ブーバーを高く評価し、「我」「汝」、「彼・彼女・それ」が互いに深く結びつきながら、自己を失うことなく人格的なものを完成するのが人間として大切であることを語つた。

その後、幸いにもブーバー師とも文通ができ、六年かけて、『我と汝・対話』を日本語訳した（現在は岩波文庫）が残念ながら墓前に捧げることになつた。ブーバーによれば、人間のとの態度には「我—汝」による主体的な出会いを遂げる道と、客観的な関係を示す「我—それ」の一いつの道がある。「我—汝」の出会いに生きる実現によつて現代の人間の危機を克服できるという。

日本でも現在出会いといふことが広く知られている。「出会い」という言葉は、日本でも古くから用いられているが、哲學的に深められたのは、

人生にはさまざまな多くの出会いがある。学究の片隅の生涯で、取り立てるほどではないが、少なくともわたしにとつて忘れがたい出会いがあつた。そのいくつかをふり返つてみたい。

ノルウェーの宗教哲学者トーレイフ・ボーマンの著書『ヘブライ人とギリシア人の思惟』を読み、ヨーロッパ文化がこの二つの思惟から成り立つ

ブーバーや実存哲學からではないのか。少なくともわたしはブーバーの対話の哲學に出合うことによつて、自覺させられたかもしれない。和歌、俳句は日本の生き方にとつて大切な中枢のものと思っている。拙詠に二、三をここにあげてみる。

大根の葉はつぎつぎと枯れつつもかさなり合ひて芽を守りゐる

人生途上前進も後退もできぬことがある。山の大根畠で赤く枯れた葉大根があつた。その中を見ると瑞々しい芽が眠つてゐるのではないか。何を大切に生きるべきかを大根は教えてくれた。大根はわたしにとつて「汝」であり、恩人である。

大患に遇つた親友が志半ばですべてを諦めていた。夕焼けの雲に向かつてふと呟いた。

いかならむ雲となりても雲はしも美しきかなと友の嘆かふ

彼の運命とその悲劇を生き抜こうとしている態度に、いつまでもともに文学や宗教を語り合おうと決めた出会いである。

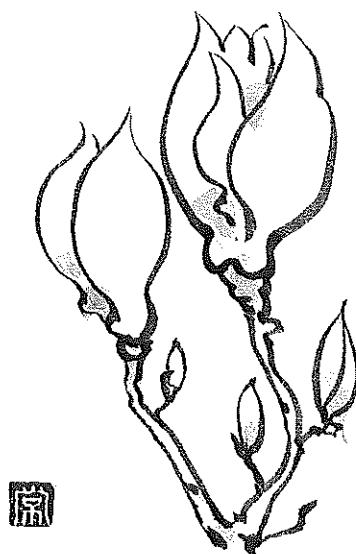
わたしは固定した宗教教団、教派の歴史から離れ、人間に内在する普遍的な宗教性を探るようにつとめた。「我・汝」に文化を広く認めようと思つた。中世ゴシックの彫刻家リーメンシュナイダーの作品を訪ねる巡礼の途上、古い田舎町ミニュナーシュタットの教会の祭壇の頂点に、死んでくずおれたキリストを抱いて悲しむ神の像があつた。

苦惱こそまことに神なれ人間とともに苦しむ神の在して

「一体わたしたちの生命やこの世界の存在は何によつて在るのでしようか。その源は光ではないでしょうか」とボーマン師は白夜のオストロで話されたことがある。「源の光」とは何か、「光に

よつて生きる」とは一体どういふことであろうか。自分とは何か、人間は絶えず問いつづける。同時に大自然、人間、神仏の他者（汝）との出会いにより、自己の存在の意味を気付かせられ、また、その出会いの恵みに感謝し、それに報いようとするのである。

うえだ・しげお 1922年静岡県生まれ。早稲田大学文学部哲学科卒。専門は宗教哲學、宗教現象学。著書に『ヨーロッパの祭りと伝承』『リーメンシユナイダーの世界』『宗教現象における人格性・非人格性の研究』『華巖集』などの歌集もある。



作品 関根常雄

わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

石油の国の悲劇

ある日突然に一ドリ二三五円のガソリンが二百円に、一区間百五十円のバスも二百円に値あがつたら、東京・大阪その他全國のめぼしい都市で大規模な抗議デモが起ころう。

しかしデモ隊の中の過激派対警官・軍隊の銃撃戦、死者三百人、負傷者千人、商店街の略奪、放火、戒厳令施行とまではなるまい。

だが先月末から今月初めにかけて、こういうことがある国で現実に起つた。南米最北端のベネズエラでのことだ。三百二十億ドルの対外債務を抱え、利払いと貿易赤字で一月には外貨準備が三億

ドル——輸入支払の約十日分——に激減した。カルロス・ペレス大統領がIMF（国際通貨基金）に緊急つなぎ融資を要請した。IMFは十五億ドルの即時貸し出しを決定したが、その条件として嚴重な引き締め政策を要求した。

それを受けペレス大統領がガソリン九〇%、バス代三〇%値上げなど一連の引き締め策を実施に移したのが先月二十七日。即日、全国各地で騒乱が起きた。

ここで問題の背景を説明しておこう。ベネズエラは面積が日本の約二倍半、人口千八百万。一九八九年コロンビアによつて発見され、一八一九年スペインの支配を脱して独立した。農業と牧畜が主産業であつたが、一九一〇年代に豊富な石油が輸出総額の九割余、政府歳入の六割余を占める石油依存国家になつてしまつてゐる。

だから一九七〇年代のオイル・ショックはこの国を急速に富ませた。七〇年代初期に一人当たりGNP（国民総生産）約二千ドルだったのが八十一

年には四千ドルを越えた。ところがその後の石油価格下落でいまは約三千ドル。浮沈のはなはだしい経済である。

ベネズエラの歴代政府も石油一辺倒の不安定を意識して、工業・農業開発に努力してはきた。しかし主要工業は外貨におさえられ、農業は少数の大地主が投機的な換金作物を栽培しているという状態からいまだに脱けだせない。

ただ、政治は一九五八に軍政を打倒して以来、民主政治が続いているので、ペレス大統領も、引き締め政策をきつかけに起こった「信じられない悲劇」（同大統領の言葉）をなんとか乗りきって、国際収支の改善と国内経済の民主的再建に進みたいという決意を表明している。

IMFのみならず、米国、スペインがすでに援助供与を約束したし、西ドイツ、日本の援助も実現するようだ。それでベネズエラが立ち直って、石油だけに頼らないですむ安定的な自由国家への道を進んでほしいものである。

1989



作品 関根常雄

蘭子の心情

米ジャーナリスト

ランコ 岩本

二年の「途中下車」のつもりだつたが：
「新入社員教育」なるものはなかつた。

9月1日付けで社員となり、初出勤の日、「これがあなたのオフィスです」と個室を与えられ、「みなに紹介するから」で、その日からファースト・ネームで呼ぶことになつたミスター・ワーズことノーマンに案内されて社内中をまわり、会長、社長、副社長、〇〇部のバイス・プレジデント、〇〇部のアカウント・エグザキティブ…、と一人当たり平均一分程度の紹介があつただけである。そして私のガランとしたオフィス

に戻ると、「あなたのオフィスだから、好きなようにアレンジしていいですよ。必要なものをオーダーなさい」となつた。

それ迄学生だったから、ビジネス、それも広報ビジネスをやるにあたつてオーダーすべき「必要なもの」が何かなど、すぐには思いつかなかつた。それに第一、どうやつてオーダーすれば良いのかすらも分からなかつた。しかし、探せば道は見付かるものだ。ビジネス・サプライ（タイプライター、タイプ用紙、メモ用紙、鉛筆、ペン、ハサミ、スコッチテープなどなど）をオーダーすればいいのだ。オーダーの仕方は、社内各部門の電話内線リストからサプライ部門を見付け、「オフィス・サプライの全てをオーダーしたい」と言つたら、そこの室長が「おやまあ」といつた感じで、ありとあらゆるオフィス用品を列挙したリストを持つてやって来てその中から選ぶように教えてくれた。

1時間後に私のオーダーはカートに山積みと

なつて運ばれてきた。そして IBM の最新電動タイプライターがデンと事務机の脇に据えられた時、私のタイプライター拒絶症はどこかに姿を消していた。代わりに旧友に再開したような懐かしさのようなものを感じたのだから不思議である。

最初から、私の仕事は「書く」となった。先に述べたように、ジエトロは「マスト・トレード・ツウ・リブ」（貿易せずには生存出来

ない）国家日本の輸出振興機関として世界各国の主要都市にオフィスを構え、日本製品の海外市場開発を目的とした調査、日本製品の紹介・プロモーション、そして日本企業に対しては、国際貿易に関する教育・啓蒙活動を、旧通産省の管轄下で手がけていた。この国内での教育・啓蒙活動は、如何にして海外で売れる「メイド・イン・ジャパン」製品を造るか、に始まり、後に各業界の体力がついてくると、海外での「売り方」指導が加わった。

アメリカは最初から日本にとつて最大市場だった上、ジエトロが海外で初めて開いたオフィスがニューヨークだったこともあり、ニューヨーク・ジエトロは日本国をあげての輸出攻勢の拠点となつた。日本の販促努力は凄まじかつたから、それを司つていた当時の通産省は日本政府そのものと海外で認識されていたと言つても大げさではあるまい。

R社に入社して一ヶ月経たぬ中に、私のスケジュールも凄まじいものとなつた。週末返上、週に一度は徹夜が普通となつた。そうなつた理由は、ジエトロが配布する情報資料、そしてニューヨーク・ジエトロの所長や P.R. 部長があちこちでやるスピーチ全てを書くのが私の担当となつたからだつた。

配布用の資料は、先ず日本経済、産業、品質管理などを紹介する小冊子作成に始まり、それらが一応揃うと、日本の近代化に関するニュー

ズ・リリース、そして アメリカに輸出され始めたあらゆる「メイド・イン・ジャパン」製品に関するニュース・リリースの作成と展開していった。

しかし、入社するなり私がまず書くことになつた最初の小冊子は、64～65年に開催されるニューヨーク世界博の為の「ハウ・ツウ・シード・ザ・ジャパン・パビリオン」（日本館の見方）だった。この38ページの小冊子は、最初から最後まで、おおげさに言うと私の「手製」となつたが、学生気分が抜けていなかつた私は、それがどれほどの大作業だつたか気付かなかつた。学期中でた論文の宿題みたいな感じで挑戦していたからだろう。それに、私に極度のタイプライター拒絶症を起させた大学院の卒業論文に比べると、実際のところ何か新しい冒険をしてる気分で、面白くさえあつたからである。

日本館は、政府館、民間企業展示館、そして日本の武道や舞踊が見られて日本レストランも

ある「ハウス・オブ・ジャパン」の三部構成で建築が進められていた。所長やPR部長のスピーチを書く合間をぬつて私がこの小冊子を書き始めたのは世界博オープンの数ヶ月前だったから、時間的には十分余裕がある筈だつた。政府館はジエトロの管轄下だつたから、展示品の情報も写真も容易に入手できた。問題は、ジエトロの管轄以外の民間の展示館だつた。何時までたつても、何が展示されるか分からぬのだ。よくある事だが、多分最後の最後まで、アレヤコレヤで決まらなかつたのである。やつと展示物の情報が入り、紹介のコピーを書いても、今度は写真がない。時はどんどん経つていく。印刷する時間切れ間際になつて、痺れを切らしたジエトロの広報部が写真調達はこちらがするから展示物の撮影をさせて欲しいと提案したら、「どの展示物を、何の目的で撮影し、どの様に使用する等」を克明に書類にして提出してくれたら「考慮する」となつた。

当時のニューヨーク・ジエトロの広報部長は、後にジエトロを辞めて、野村総合研究所の初代所長になつた徳山二郎氏で、能力も抜群だったが鼻柱も強い人だつた。彼は私を呼んで事情を説明し、「こうなつたら、隠し撮りをするしかない」と私にそれを依頼した。学生時代から写真撮影は好きだつたし、なによりも開催までにこの小冊子を仕上げたかった私はふたつ返事で引き受けたのは言う迄もない。当時愛用していたニコレックスを首から下げ、三脚もフラッシュも使わずに手持ちで、時にはカメラを首から下げたままでシャッターを切つた。薄暗いところでは、壁に凭れて息を止め、1／2秒でとつたりしてスリル満点だつた。写真のクラスなどでは、そんな常識論では仕事は片付かなかつた。

先にこの小冊子は私の「手製」と書いたが、文字通りそだつた。普通、ライターはコピー

を書くだけで、フォトグラファーが撮影を担当し、ページのレイアウトはデザイン専門家や会社が担当する。コピーと写真が揃つたので、さてレイアウトと、R社のデザイン部に見積もりを頼んだところ、目の玉が飛び出すほど高額の見積もりが提示された。ここ迄くるのに多くの時間を費やし、レイアウト・デザインは「オーバータイム」でなければやれない、というのが理由のひとつ。理由が何であれ、見積り額に飛び上がつたジエトロは、「Rankoさんの感覚でいいから、あなたがやつて下さい」と言い、開会日の記者会見になんとか間に合わせたかった私は、それをまた引き受けことになつた。やつてみれば、なんでもない作業だつた。もともと文を書いたのも、そのイラスト用の写真を準備したのも私だつたから、どこにどの写真をどの様に入れれば効果的かを良く知つていたからである。

エピソードは他にも沢山あるが、話を先に進

める為にこの件ではもう一つだけ付け加えるに止めた。R社の印刷部もまた「オーブニング」の記者会見に間に合わずには、オーバータイムでなければ出来ない」と突っぱねた。また目の玉が飛び出す見積もりの提示である。私はもうジェトロにいちいち報告せず、外部の印刷会社の社長を呼んで相談し、ジェトロが納得する値段でこの小冊子の印刷を行つてしまつた。外注であり、R社内ではご法度のやり方だつた。案の定私は創業者のF会長に呼ばれてお目玉らしきものを食らうことになつた。会長の傍に印刷部の部長がいたから、彼が言いつけたことは明らかだつた。

難産だつたこの小冊子をなんとか誕生させたお陰で、物事のやり方のコツも徐々に分かつてきた。こうして、徳山氏の指導の下で、私は次々とジェトロ初の英文小冊子を書いた。時には日本館紹介の小冊子の際と同様、写真を調達し、レイアウトもした。初テーマの中には「ハウ・

ジャパンス・エコノミー・ワークス・フォーユウ」（日本経済があなたにとつて意味するところ）、「インダストリアル・デザイン・イン・ジャパン」（日本の産業デザインについて）、「ハウ・ジャパン・ピープル・リブ・ツウディ」（現代日本人の生活様式）、「サイエンス&テクノロジー・イン・ジャパン」（日本の科学とテクノロジー）などがあり、数か国語に翻訳されて各主要都市でジェトロから配布されたと聞く。「クオリティ・コントロール・イン・ジャパン」その他も手がけた記憶がある。これらの情報資料は、当時まだまだ「メイド・イン・ジャパン」に対して根深かつた「安からう・悪からう」のイメージ打破を目的としていた。

留学生活が長かつた私は、高成長期に突入していた日本の現状に疎かつたから、これらの小冊子を書く事 자체が大変良い勉強になつた。日本はまだ貧しく、國民はつましく生きていた時代だつた。アメリカ側で私が関与した日本関

係の仕事は、此れ迄述べた例でも明らかなように、ほとんどが、「ナイナイづくし」の環境のなかで実行された。「時間が無い、資料が無い、予算が無い、そして理解も無い」という環境だった。

「時間が無い、資料が無い、予算が無い」はそれほど苦にならなかつた。「時間が無い」は、こなさねばならぬ仕事のどれを「優先」すべきか、と考えてから取りかかるなどを教えてくれたし、「資料が無い」は何処に、または誰にあたれば何となるかを知ることになつたり、内容に依つては、自分の頭で答を考えてしまふ度胸を養つてくれたし、「予算が無い」は工夫することを教えてくれた。辛かつたのは、「理解が無い」だった。これは今でも辛い。

最初2年位の予定で入ったR社、そしてパブリック・リレーションズ分野だったが、この私の予定はどんどん狂つていつた。やるべきこと

はあまりにも多かつた。アメリカ側で通商をして日本経済の「国際化」を見ていると、懸念する「とも増えてきた。私の滞在が長引いた理由は色々あらうが、結論的には、自分が関与している事態は大変有意義であること、日々こんなしていける作業は、学生時代に想像したジャーナリズムとは些か形式は異なるものの、国際舞台で日本のこと 등을伝える報道活動に他ならないこと・・・などに気付いたからだと思う。

「ナイナイづくし」の環境下での作業は決して楽ではなかつたが、仕事自体は遣り甲斐があつた。役立つてゐる、という意識があつた。その時、繊維問題を皮切りに、各分野の日米貿易摩擦が水面下で確実に進行中だった。

文化の違い

入社する前に私が時の問題と懸念した「摩擦」は、ジエトローR社関係でも既に進行形で発生していた。

アメリカ側は流石に、感じているフラストレーションを日本人である私にあからさまにぶつけることはしなかつたが、ジエトロに手を焼いているのは明らかだつた。私が来る前に、担当者が2人「首」になつていた。私が来てからも、3ヶ月で1人解雇され、その後任も2年足らずで辞職した。後になって、ジエトロ・アカウントの最高責任者のノーマン・ワイズが私に、「今迄は、有名大学卒で、背はあまり高くない人間を雇うようにしていたが、もうそれどころではなくなつた」と漏らしたので、アメリカ側がそこまで気を使つていたことが分かり、可笑しいやら氣の毒やらで、コメントに窮した記憶がある。

R社内のジエトロ・アカウント・チームは、基本的に4人で構成されていた。スーパーバイザーのノーマン・ワイズ、30代前後のアメリカ男性と私、そして秘書のメアリーだった。同僚の男性は、ボップ、スイング、ジョン、トム・・・と何度も変わつたが、ノーマンの言う通りエール大卒や、国連の元記者とか、つまり日本側が人間的に「良い銘柄」と認識する学歴やキャリアの独身青年だつた。仕事の担当は、男性同僚が「外回り」、主としてメディア関係や各種行事・イベントを手がけたが、日本のクリエイントの公私諸事——日本からレポーターが取材に来たり、高名な大学教授が調査に来たりすると米企業のトップとのアポを取りつけたり、日本からエライ役人がくると、良いレストランを推薦したり、ブロードウェーのシヨーの切符を世話したり、新任のジエトロ部長の子供が通学するに適した学校やその環境を

調べたり一の作業も含まれていた。」これがなかなか大変な作業だった。

今と違つて当時の日本では、「サービスはタダ」で、雇つている（つまりビジネスを与えて）会社は「サービスを提供するのが当たり前」という常識があつた。日本ではそれが常識でも、ノーノアメリカでは通用しない習慣である。

日本の大手企業をクライエントを持つ米廣告会社の担当者から、「日本は高いフィーを払つて我々を雇つておきながら、何故我々をメツセングジャー代わりに使うのか？」と、真に気が滅入る質問をされたりしたのもこの頃である。

1974年にマクグロウヒル・ビル内の現在のオフィスに引越すまで、ジエトロは五番街の36丁目あつた。一階は展示用ショールームで、二階が事務所となつていて。典型的日本の「大部屋」で、入つた途端に全て一調査、織維、機械、カメラ、船舶、自転車、鉄鋼、雑貨、etc—の部門の様子が丸見えだつた。「部門」

といつても机が一つか二つで、計約20人ほどの男性所員が書きものや電話をしていた。机の数を増やしたり位置を変えたりするだけで、自由自在にその時々のニーズに対処できるシステムである。

さて、日本側のR社に対するフラストレーシヨンだが、これは私の曉通するところとなつた。日本側はアメリカ側へは遠慮・・・というか警戒してというべきか、口が重くなりがちだつたのと異なり、私が「日本人」である故に、驚くほど明け透けに、そのことを私に告げたからである。私のことを「同胞」とみなしてだつたと思う。そして例の「大部屋」システムも関係していたであろう。中央にソファアが2つ据えられていて、そこが来客や所員達の「打ち合わせ」場所となつていた。だからジエトロに行くと私は当然その大部屋の中央にデンと置かれたソファの1つに坐ることとなり、対面したもう1つのソファに坐つたジエトロの人と打ち合わ

せすることになった。このレイアウトによつて、打ち合わせの様子からその内容までの全てが、ソファを囲むようにズラリと四面の壁に沿つて並べられた机で事務を取つてゐる所員に筒抜けとなつたのである。

日本式打ち合わせだから、「いらっしゃい」とお茶が出る。お天気その他の挨拶的話題から始まる。それから「それではやりましょうか」となることが多い。相手が誰であれ、ワザワザ来てくれた人と直ぐビジネスの話に突入するのは不躾で「失礼だ」といつた日本風のエチケット感覚がそうさせるのであらう。

アメリカ式のキビキビしたビジネス感覚ではなく、少なくとも表面的にはリラックスした雰囲気だから、四方山話風に色々な話題が飛び出すことが多かつた。日本側のアメリカ側に対するフルストレーションは、得てしてこういう状況下で飛びだした。すると壁際の机で仕事をしていた誰かが、「そりいえばエー・・・」と

立ち上がり、飛び入りで私たちの四方山話に参加することも稀ではなかつた。

こうして私は日本側のR社に対するフルストレーションや苦情を聞かされ、得てして「何故アメリカ人は・・・」といった全般的国民品質に関する質問まで受けることになつた。

「文化」とは、或る人間集団が生きてきた環境下、「これが一番適したやり方」となんとなることが多い。「これが一番適したやり方」となんとなることが多く、相手が誰であれ、ワザワザ合意して、結果的に育つてきたその人間集団特有の「習慣」、つまり生活の知恵とも言えるだろう。特定社会・民族の「感じ方、考え方、ゆえにやり方」となり、これは「良い・悪い、正しい・間違つている」の是非論や、「どちらがベター」の優劣比較の視点で討論されるべき問題ではない。

しかし人間が人間であるゆえに、どうしても色メガネで相手を判断してしまふ嫌いがある。自己の文化に基づく是非論、優劣比較論でコトに当たつてしまいがちだ。ジエトロの場合もこ

の例にもれず、日本側が当然のサービスとみなす諸事を、いちいち言わなければやつてくれないR社は「気が利かない」という社内世論となつていくのにそう時間はかからなかつた。

仕事の打ち合わせを兼ねて、たまには「機嫌伺いに来れば良いものを、何でも電話で片付けようとする。しかも、溜つていてる仕事の進行状態が気になつて夕方電話すると、「彼はもう帰りました」である。よく仕事を放つたらかして、時間がきたからとサッサと帰れるものだ。僕達は、夜の9時、10時までやつてているのに。「不真面目だねえ、彼等は・・・」

全く取るに足らない些細なことが、文化摩擦の引き金となり、話がドンドン曲がつていく。

或る日打ち合わせでジエトロに行つていた

私に、ノーマンからジエトロ所長宛ての手紙がつきつけられ、「」のふつきらぼうな書き方は何だ」と苦情を言われた。見ると、「今日のニューヨーク・タイムズ紙に載つた記事で、」参

考になるかとお送りします」。正真正銘の「一筆」である。

いまだに日本式では、まず気候の挨拶に始まり、次に四方山的に何か書いて、やつと、長々とした本題に入り、それでも1ページで終わつてしまつ時は、「申し訳ありません、ぶつきらぼうな手紙と思われるかも知れませんが」と、2ページ目は何も書いてない白紙を添えるのが通例らしいから、30数年前の日本人がこのような「一筆」の手紙を「ぶつきらぼう」と感じたのは仕方ないだろう。しかもクライエントに対して、更にそのトップのエライ人に対してである。だから終局的には、「」のなめた手紙の書き方は何だ」となつてしまつ。

第一、「」参考に」と同封された英文記事が何の参考になる」と指摘もしていない。我々にこれを(字引と首つ引き)読めというのかよ、おい。

不躾・不親切が頭にきているトップは、八つ当たりで、「忙しくて読んでる暇がないから、要約して」とそれを広報部に押し付ける。押し付けられた方は、「この忙しい時に」とこれまで頭にくる。でもそれを顔にだせないから、余計腹が立つ。

テンポが速く能率主義のアメリカ側は、「こと日本に関する、全く気分が重くなつていて、必要以上に何でも出来る限り「電話一本」で片付けたがつた。

出向くとこやかに迎えられ、まずお茶が出て、次に四方山話の雑談。「打ち合わせに来て欲しい」と言うので出向いたのだが、なかなか本題に入らない・・・かと思うと知らぬ間に本題に滑り込んでいるようで、と頭の中でウロウロしている中に、「どいつたところです」となり、時によると、「どうですか、今夜一杯やりませんか?」となつたりする。

アメリカ側は「今夜一杯」にこめられた意向が分からぬから、10回誘われば10回断るか、受けても精々1、2回、それも心中しぶしぶでとなる。仕事とはいえ、夜の、つまり自分の個人時間を使うハメになつたことに抵抗がある。1週間のスケジュールをピシリと立ててあるから、「今夜はステーキよ」と家で準備している奥さんに予定変更の電話をせねばならない。日本人妻でないから宥めねばならない。ア何故こうも、日本人とのやりとりは疲れるのだろう・・・。

何故こうも、日本人は簡潔明瞭に口をきいてくれないのでだろう?「イエス」だと思つて聞いていると、結論は「ノウ」だつたり、「小言」と思つて謹聴していると、「東京本部が訳の分からん奴ばかりで、ニューヨークの僕たちも振り回されている。だからR社にも無理を言うことになつてしまふが・・・」と發展したりして、

「では、どうしたらいいのか？」が分からなくなる。

日本側の相手の面子を重んじての「腹芸」や「以心伝心」は、アメリカ側に伝わらないところが、かえって「不親切」となる。日本側の長々とした背景説明は、アメリカ側にとつては「有難迷惑」だ。聞く耳を持たない彼等の頭の中は、次に自分が言おうと考えていることで一杯で、「早く結論を言え！」で苛々していることが多い。

続く



作品 関根常雄

定例講演会

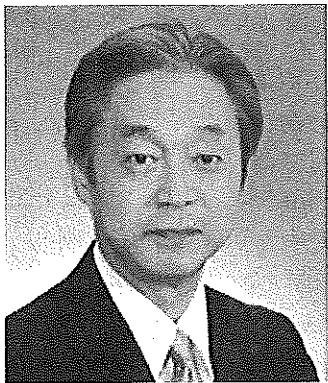
於・三笠会館本店

一〇一六年の内外経済を展望する

三菱UFJ

リサーチ&コンサルティング株式会社

研究理事 五十嵐敬喜



何で金利を上げるのかというと、どこの中央銀行もそうですけど、金利をゼロにしておきたくないのです。なぜなら、金融政策というのは金利を上げたり下げたりするのが基本ですから、将来また金融緩和をしないといけなくなることが当然あるわけです。そのときにゼロだったら下げようがないからです。金融緩和で金利を下げたくなつたときに、下げられる余地をつくるために、上げられるとき上げておくというのが、今、金利を上げたい理由なのです。そういう意味で次は利上げだと、でもそれはマーケットからすると実はドル高の理由だということになります。アメリカで金利が上がるということは、ドルが強くなる理由だというふうにみんなが信じているのです。

従つて、このグラフで青い線はドルの名目実効レートと書いてあります。これは為替レートなのです。どんなレートかというと、ドルレートというのは、ドル対ユーロのレートとか、

ドル対円のレートとか、ドル対イスラエルのレートとか、いろいろあります。全部平均したもので、だから、全部平均したというものは、ドル対ドル以外の、海外通貨全体との為替レートといった感じです。ドルの総合的な強さを示す指数で、上に行くほどドル高という感じなのですが、QE3が終わるちょっと前から、ドルが上がっています。これはFRBがこのQE政策を一年かけてやめるよといって、徐々に徐々に供給を減らしてきていたわけです。機械的に減らしていくわけです。ということは、いつQE3が終わるか、もうわかつてないわけです。そうしたら、その次は利上げだつたということを言っていますから、あつ、次は利上げかと。QE3が終わったら次は利上げかと。利上げだったらドル高かと。ドル高になるのだつたらドル高になるのを待つ人はいません。先にドルを買っておけばもうかるわけですから、QE3の終わりが見えたころからドルをみんな買い始

めたので、ドルが上がり始めたということです。こんな感じでドルがどれぐらい上がつているかというと、QE3の終わりころにドルが上がり始める前というのは、水準が100ちょっとだつたのです。それが今、120を超えていきます。2割もドル高になっているということです。だから、そういう意味でこの一年ほどの間に、ドルは全ての通貨に対して2割もドル高になつているのです。この日本でいえば円高に相当する、円が2割も上がりましたというようなことが日本で起こったのと似たようなことが、アメリカでも起きてドルが2割も上りました。そうすると、ドル高の悪影響がそろそろアメリカに出始めているという問題があつて、これから先の為替レートを考えるときに、アメリカ自身もあんまりこれ以上ドルが強くなることは望んでないなど。ドルが強くならないということは、円が安くならないということです。だから、あんまりここから先、円安が進まないの

ではないかというふうに私は思っています。いずれにしろアメリカはそうやって、今度は金利を上げるということなのですが、こうやってアメリカが今まで、じやぶじやぶとお金の供給をやつて、それが新興国に流れていたのです。今度はアメリカでこの供給がとまって、そして金利が上がるとすると、マーケットはどう思うかというと、今までアメリカから新興国に大量に流れていたお金が、今度はアメリカを目指して戻ってくるという、こういうイメージです。

そうすると、投資家は何を考えるか。今までさんざん新興国に流れていったお金が、今度はアメリカに戻つていくつていうことは、新興国の相場が崩れるのではない、新興国の相場が崩れるのだつたら崩れる前に自分の投資は引き揚げて、もつと儲かるところ、例えばアメリカにお金を戻すとかそういうことをすべきだといつて、もう既に投資家がそういう動きをしています。だから、新興国の相場が下がつてい

ります。新興国にいつまでもお金を置いたら損をする、逃げないといけないと。逃げるというのはどういうことかというと、新興国で株を買っていた人は新興国の株を売るわけです。売つたら、例えばインドネシアでインドネシアの株を売つたら、インドネシア・ルピアにかわるだけですね、まだ逃げたことにならない。ルピアを売つてドルにかえて、初めて逃げたことになるわけです。だから、それをやつているトルピアが下がる。新興国通貨が下がる、新興国の中だ、債券の相場が崩れると、こういうことが起つていて、新興国は大変困っている。アメリカの金融政策がこうやって去年から、そしてこれからも転換が続くということが新興国に大きな打撃を及ぼすという問題があります。

もう一つが中国です。中国というのは御承知のように、世界第2位の経済なのです。2010年に日本経済に、当時の2位の日本経済に追

いついて迫り抜きました。今、5年たつています。今の中国経済というのは日本経済と比べるとどれくらいの大きさかというと、2・8倍です、およそ3倍。わずか5年ですけれども、中国経済は今、日本経済の3倍近い大きさです。それでも日本は3位ですから、中国から見ると自分を脅かす存在などないわけです。自分の次に大きい日本だって自分の国の経済のもう3分の1ぐらいなわけです。そういう意味で断トツの2位で、アメリカがその上ですが、中国の規模はアメリカの6割ぐらいを超えていました。したがって、そのうちアメリカにも迫つこうかというような規模になつています。

その極めて大きい中国経済が、今まで爆買いを続けてきたわけです。観光で日本に来た人が爆買いとかそんなレベルではなくて、中国 자체が世界中から爆買いを続けてきました。世界から資源を大量に購入してきました。原材料、部品、製品、さまざまなものを作世界中から大量に

輸入してきました。何が起つるか、資源価格が高くなります。中国に輸出して高成長する国が多くあると。中国よりみんな小さな経済ですから、その大きな経済が買つてくれるということは、輸出する側からしたら大変な輸出の伸びが期待できるわけです。そのことが高成長をもたらします。そうすると、中国のおかげで新興国が潤つているわけです。高成長しているし、資源を持つてゐる新興国は資源価格が上がって、もう大変な勢いです。そうしたら、そういう国に投資するのは妙味があります。高成長している国に投資したらもうかります。だから、アメリカが用意したお金がそういう新興国に流れていたわけです。資源で潤つてゐる国とか、あるいは中国に輸出して高成長してゐるような国に、これは投資したらもうかると言つて、投資家がそういう新興国に投資してゐたわけです。その中国が減速していることが実は新興国、つまり輸出に頼つていていたような新興国の経済

を悪化させているのです。資源価格の高騰で、ぐらをかいていた国々が、資源価格が大きく下がって今、大変苦しんでいるわけです。そんな国に投資してられないといつて投資家がそういう国からお金を取り上げています。アメリカの金融政策が転換されるということが、そのお金の引き揚げを加速させていると。」という問題が起っているわけです。

中国の影響という意味で、原油価格とドルの実効レートと書いた紙があります。昨年の夏以来大幅に下落した原油価格という表題がついていますが、2000年からの原油価格を左の目盛りで示しています。それから赤い線は、さつきもちょっと見てもらつたドルの実効レートといつて、ドルの総合的な強さを示す線なのです。ですが、今度は目盛り、上に行くほどドル安、下に行くほどドル高という、こんな関係があるのです。

そうしますと、赤い線が上に行くっていうのです。

はドル安に行くということですが、赤い線がドル安を示すときは原油価格高です。赤い線が下がるとき、つまりドル高に行くと原油価格安です。そういう意味でそんな関係が見てとれるのですが、そういう関係が崩れているときが二回ほどあります。一つは、2008年、2007年から8年にかけてこの原油価格が急騰して、ドルレートとかなり差が開いたときがあります。それからもう一つは2011年ぐらいから何年かにわたって、原油価格が大きく乖離している時期があります、この二つ、2007年から8年にかけては、実は思い出していただきますと、もう世界規模で原油価格だけではなくて、さまざまなコモディティーの価格、食料品などとか、こういうものも急騰したときです。

それがリーマン・ショックで、価格暴落したわけです。暴落したので、2009年から赤い線がずっと上昇している、つまりドル安のほうに行きましたが、これはアメリカで量的金融緩

和政策も含めた、大変な金融緩和政策がとられたのと、大幅なドル安が進んだわけです。そのときに見合つて原油価格も上昇したのです。ただ、大幅に原油価格が上がつて、ドルとの大きな乖離が数年にわたつて続いています。原油は一時120ドルを超えていました、1バレル120ドルを超えるような原油価格高になつて、その後少しづつ下がつては、100ドルを超えるようなレベルが数年にわたつて続いています。大きな乖離をしたまま数年にわたつて続きました。

このことが何を意味するのかということです。これは二つの見方があつて、一つは、原油価格がバブル的に高い状態が数年にわたつて続きました。去年の夏以降、特に秋から原油価格が、本来あるべき水準に向かつて急激に調整し、一気に急激に調整して今があるという点です。数年間にわたつてバブル的な高値が続いていたのです。それが今、本来あるべき水準

に実は一気に戻したということなのか。そういうではなくつて、しかるべき理由があつて別におかしなことではなくて、何か大きな変化があつたので、去年の秋ぐらいから原油価格が一気に大幅に下落したのだと。どつちの見方が当たつているのだろうかと。もし後者の見方があつて、高かつたのが当たり前で、去年の秋以降、何か特殊な理由があつて一気に下がつたというのだったら、その理由がなくなつたら、また戻るとい、原油価格はまた100ドルぐらいを目指して戻ると言えるわけです。それに対して高値が異常であつて、本来あるべき水準に急激に最近調整したのだというのだつたら戻らないという、こういうことになるわけです。どつちですかということについて、私は戻らないといふことではないかと思います。この高値が、11年から14年ぐらいにかけて4年ぐらいも高値が続いたのが、中国のせいだと思うのです。ドルが示す水準に比べて原油価格が大幅に

高かつた数年間を見てみると、中国が発表している経済成長率で、四半期ごとで、11年のスタートのときは、10%成長していました。それがだんだんだんだん、徐々に徐々に成長率が落ちて、15年の第三・四半期、7～9月期なのです、7%成長なのです。だから、10%から7%まで5年ぐらいかけて、4、5年でゆっくりゆっくり10から7まで成長率が下がってきたと、中国政府は発表しているわけです。ところが、マーケットで、特に最近ですが、それは本当か、今も7%成長しているのは本当かという疑いがあるのです。

その疑いを裏づけるかのように、李克強首相です。李克強さんが首相になる前ですが、私は中国のGDP統計を信用していないと言ったのです。私が見てているのは三つの指標だとして、電力の消費量、鉄道、貨物の輸送量、そして銀行貸出残高、これを見ているというのです。これは景気の実態をよく反映するので、私はこの

三つの資料で景気の判断をしていると、こうおつしやったのです。そこで我々は、そうか、この三つが大事なのかいうことで、この三つをくつづけて、李克強指数と名づけて、それをずっと追いかけてみたわけです。結構振れはあります、李克強指数は、経済成長率が10%のころに、10%を超えるような伸びをしていましたわけですね。それがずっと落ちてきて今、マイナスです。これが実態だとすると、政府が発表するGDP成長率に比べると、李克強指数もどちらに当てるになるかももちろんわかりませんが、しかし、こっちのほうが実態に近いのだとして、発表されている以上に中国の成長の勢いは落ちているのだろうなというふうに思われるわけです。このことが実はさっきの原油価格高の異常な高値が数年間続いて、最近一気に落ちたことを私は説明しているのではないかと思うのです。

振り返りますと、リーマン・ショックという

のはアメリカで住宅バブルが崩壊したのです
が、住宅バブルが崩壊したときにアメリカの人
たちはバブルっていたから、もちろんいっぱい住
宅買つていたわけです、大勢の人が、もちろん
借金をして買つているわけです。バブルがはじ
けると住宅価格が暴落するわけです。借金は減
つてないので、逆さやになるわけです。家を売
つても借金を返せない状態になるわけですね。
そうなったときにやらざるを得ないことは、1
日も早く逆さやを解消することです。そのために何
をするか、もちろん消費を抑えてお金を余らせ
て、余ったお金をせつせつせと返済に振り向
けることです。だから、実はアメリカで消費が
減つてしまつたわけです。リーマン・ショック
で起つたことというのは不動産、住宅バブル
の崩壊なのですが、住宅バブルが崩壊してアメ
リカで起つたことというのは、消費が減つて
しまつたわけです。消費が減るとアメリカはあ

んまり国内で物をつくつてないので、消費がふ
えるとすぐ輸入がふえる国なので、逆に消費が
減ると輸入が激減してしまつた、これがリーマ
ン・ショックの結果起つたことなのです。ア
メリカ、世界最大の輸入国の輸入が激減してし
まいました。

そうすると、世界の輸出も激減するわけです。
輸出に頼つて成長しているような国はもう大
弱りです。一番困つた国はどこですかと云えば、
日本です。アメリカの輸入が激減して、日本の
輸出は半年で、リーマン・ブラザーズが破綻し
たのが2008年9月ですが、そこからわずか
半年で日本の輸出半分になつたのです。日本經
濟始まって以来の、とんでもない災難が降つて
きたわけです。当時の麻生首相は、日本經濟の
底が抜けるとおつしやつた。底が抜けたら大変
なので、麻生さんは省庁に号令をかけて、景氣
対策を出せと、何でもいいからともかく景気対
策出せと言つて、無理やり出させて集めたのが

10兆円。麻生さんいわく、「こんなもんじやとても足りないからもつと出せ」と言つてさらにない知恵を絞らせて、実に15兆という景気対策を打つたのです。日本経済始まって以来のこの大型補正予算を組んだと、15兆だったと云うことになりました。

中国も同様でした。中国も当時二桁の成長していましたが、8%以上を目指していたのです。そうしないと、失業がふえて社会が不安定化したら困るといって、中国政府は8%以上の成長を目指していたのですけど、実際は二桁の成長して、そのエンジンは輸出と投資だったのですしかし、アメリカが輸入しなくなつたので、中国も輸出が激減したのです。そうしたら、何と二桁成長が6%台に落ちてしまつたのです。8%目指している国が6%まで成長を落としてしまつたわけです。これはきわめて悪いわけです。中国も財政からお金を使って景気を下支えにかかりました。幾ら使つたかというと、4

兆元使つたのです。当時のレートで60兆円です。

中国は2010年に日本の経済に追いついたわけです。これは2009年の初めの話です。2008年の秋にリーマン・ブラザーズが破綻して、2009年の初めに中国は6%成長まで落ちてしまつて、そこで60兆円の金を使つたわけです。でも10年に日本経済に追いつく二桁成長を続けているような国が10年に日本経済に追いつくですから、9年の初めといえれば日本経済の9割以下での、そういう規模だったわけです。日本経済のまだはるかに小さい中国経済が、60兆の対策です。日本は空前の15兆の補正予算を組んだのです。でも中国は60兆の対策を打つたわけです。とんでもない金額です。

何が起こつたかっていうと、たつた4・4半期、たつた一年で、6%の成長が12%に駆け上がつたのです。やり過ぎです。もちろんやり

過ぎたのですが、この金がバブルをつくりまして、中国がここで4兆元という金、60兆円という金が中国经济を一気に持ち上げてしまつたと。そのときにみんなが誤解する。二桁成長を続けていた中国が、リーマン・ショックのせいで6%台に落ちてしまつたと。でも、景気対策が打たれたので、再び二桁成長に戻りました。一瞬12%まで行つたのです。11年の初めに10%成長です。だから、12%ではありましたが、一年たつた後もまだ二桁成長を維持していたわけです。だから、みんなが思つたのは、これで戻つたということです。戻つたというのは、中国の二桁成長というのは中国の実力だとして、爆買いを続けてきたわけです。また爆買いが続くということです。

爆買いが続くなつことは原油価格が100ドルを超えてくるようなのは当たり前だと。中国の産油国だつたら10何ドルで掘れるわけです。それで100ドル超える値段で売つたら

ぼろもうけです。そう思うのだつたら、もつともつと井戸を掘つて、供給量をふやしたらもつともうけがふえるわけです。供給なんか減らなわけです。それからアメリカでシェールが開発されてきて、これは70ドルぐらいのコストかかるのだけれども、去年の秋にOPEC総会が開かれたときに、少しずつ原油価格下がつていたのですが、サウジが、本当ならこの少しずつ下がつてきた原油価格の下げをとめるためには、供給削減したほうがいいわけです。OPECで削減を合意したらしいのですが、サウジは嫌だと言つたわけです。というのは、アメリカのシェールというのは70ドルからのコストがかかるわけで、こつちのコストに比べてはるかに高いわけです。供給を削減しないといけないのでしたら、コストのかかるほうが削減すべきであつて、コストの安いほうが削減するなんておかしいと。だから、このまま我慢比べをしたら、そのうちこの70ドルが採算割れで

も起こしたら、嫌でも撤退していくだろうと。そうしたら、また価格コントロールを握ることができると思って供給削減をしなかつたわけです。そのことが実は去年の秋からの暴落につながっているのです。

中国のこの矛盾というのですかね、発表されているGDP統計はずつと、徐々に徐々に成長率が下がってきているけれども、その下がり方が極めて緩やかなのです。さっきの原油価格のグラフをもう一度見ていただきますと、11年から14年にかけてやっぱり少しずつ下がっているわけで、ちょっとずつ下がってきています。だから、中国経済の減速に見合って、価格も緩やかに下がってきたという感じです。マーケットはそう思っていたと。中国経済は徐々に減速してはいるけれども、原油は引き続き高値だと。こんな大きな経済が爆買いを続けるのだから資源価格の高値が続くのは当然だと。実はこの原油価格というのは先物価格なのです。そ

こで先物価格と云うのはどういったものなのでしょうか。

先物価格というのは、例えば3カ月先の原油価格を売り買いするような市場です。ここで支配しているのは、上がると思うか下がると思うかという投機の世界なのです。例えば3カ月先の原油を買っている人が、3カ月たつて期限が来たら買っていた、予約していた原油を引き取るのでですかといつたら、引き取るために自分でタンクを持つてない限り引き取れないわけです。3カ月を先物売っていた人が、3カ月たつて期限が来たら、約束していた原油を売るのですが、渡すのですかと言つたら、原油を自分で持っていない限り手渡しようがないわけで

す。

実はこれ北海原油の市場の例ですが、この市場の取引金額と、実際の北海原油の産油量との間にどういう関係があるかというと、取引金額が産油量の420倍もあるのです。だから、実

際行われているのは、3カ月先の原油を買うと、3カ月たつちよつと前に、逆に売ると。買っていたものを売ると。値上がりして、いたらその分もうかるわけです。原油を買つたり、引き取つたり、渡したりする必要は全くないわけです。値段の売り買いだけで、差額の決済をするだけでもうかつたり、逆に損したりする、それだけの市場なのです。実際の産出量の420倍も取引があるということは、そういうことなのです。だから、思惑が支配しているのです。

実は中国は爆買いを続けています。確かに少しずつ成長率が下がつていて、買う量も少しずつ伸びを落としているのですが、しかし、爆買いが続いています。だから、原油価格は高値で大丈夫だと、こう思つてきたわけですね。でも、だんだんだんだん中国の統計は本当に正しいのかという疑いが広がってきて、李克強指数などを見ると、もう今やマイナスじやないかと。ほかの指標などを見ても中国の景気は相

当悪いと云うことが分かつてきました。あげくにこの夏に、8月に中国が通貨の切り下げをしました。通貨を切り下げる輸出をふやすないと経済がもたないということを当局が認めたのではないかつていうようなことが、実は中国经济に対するこの、強いぞと思つて、この見方を完全に払拭してしまったというのです。

例えていうと、李克強指数が示すように経済はかなり減速してきています。でも市場の思いは、減速はしているけど、大して減速はしないと思つていました。でも、あるとき気がついたら、本当はもつと現実の経済は下にあるということで、一気にその現実の経済に向けて、思惑が支配する原油価格も下がつてしまつたと、こういうことが起つたのではないかと思うわけです。

そういう意味で今、マーケットで中国が、経済がとんでもないことになるぞというふうに言われたりすることがあるのですが、私はそう

ではないと思います。中国経済は着実にというか、ずっと減速してきた。相当今、減速しているけれども、でもマーケットはその減速を十分に認識していなかつた。でも最近、急に認識を改める、ことになつて、現実にまで近づいて、だから今、認識と現実がほぼ見合うようなところまで来たのだとすると、これから先、さらに何か暴落があるとかいうことではないと思うのです。

続く



作品 関根常雄

昭經俳壇

京子

啓蟄や皆影もちて動くなり

春光に濡れて水かけ地藏尊

近代の足音ひたと司馬忌くる

風荒れて彼岸の入りを待つばかり

はや土筆生ひしか土手に親子づれ

啓蟄や命にぎはふ星に住み

店先に彩を並べて花舗の春

故郷なき身終いの棲家や涅槃^{ねはん}西風

花町は今はビル街木瓜の花

耳うとくもらす話や涅槃西風

太古より火を噴く山や菜花忌

波となり渦となる空鳥帰る

啓蟄や命ひしめき初めし里

重き荷を小さき肩に流し雛

山人

流水のなきこの年や漁り船

涅槃図に夕日さして淨土かな

花菖蒲堅きつぼみもゆるみ出し

春の波返して寄せてささやけり

ブルーストの甘きささやき夏浜辺

釣釜や茶の湯の白き春の音

田蝶鳴く思ひすごしの事多き

床の間に活けし一ト枝山椿

ゆであげて田蝶の青さ黒さかな

春の夢身に覚えなきことばかり

さへづりの果てなくのびて八ヶ岳

春の夢身に覚えなきことばかり

採りためし蕨の籠の匂ひかな

梅園の先に教会赤き屋根

信州の春曙や天も地も

摘み草や夕日落ちゆく野の果てに

晩春の動かぬ雲や岩木山

長谷川

三郎

三郎が踊る句

晩春の動かぬ雲や岩木山 大ないに熊本城の春嵐
花椿落ちて大地に返り咲き 震度七強烈パンチ花吹雪く
緑立つ交響曲をきく短波 熊本に地の揺れ三の余寒かな
春光の棚田に沿うて能登の旅 強烈な余震におびえ小鳥引く
娘いまニューヨークに居て雛飾る G 7 集ふ桜の広島に
白魚の姿楚々たりうるし椀 広島に平和部隊や春うらら
ぐるりんと目玉出したり鮭五郎 被爆地に平和発信ひばりなく
杭州の西湖に芽吹く柳かな 広島に平和の使者や春の風

聖德太子像 先輩からの書状にて

先日、主宰する短歌同人誌・淵の大きいなる支持者で先輩の友人から書状を頂いた。先輩は奈良の斑鳩の里に造詣が深く、奈良の風景はもとより由緒ある寺や仏像を撮り続けて多くのすぐれた作品を残しておられるが、同時に敬愛する大歌人、会津八一の和歌に触れながら、時に斑鳩の里を逍遙しておられる。その先輩からこのほどの書状で、日本画壇の大家である杉本健吉画伯が、五年の歳月をかけて完成した聖徳太子の障壁画についての参考資料を送られてきた。杉本健吉画伯は四天王寺の絵堂の障壁画を昭和58年に奉納されたが、制作にあたつての、「苦勞と喜びを語つたお話を掲載されたもので、杉本美術館の事務局から発刊された「杉本美術館だより」の小冊子である。先輩の送つてきて下さった「杉本美術館だより」

を読みつつ、聖徳太子の典雅な障壁画を見て尚、改めて考え深く拝読した次第である。画伯の「苦労談の中から、太子像を描くにあたつて想像するに、大言壯語に過ぎて偉ぶらない、むしろ画伯のひたむきな太子に対する畏敬の念と、素朴で純粹な心境が窺えて意外な面を知つて感動を覚えたのである。聖徳太子の人間像を生き生きと描くことによつて、威徳と同時に、人間的な豊かな親しみを覚え、その高邁な人間像に迫ることが出来るからである。そしてしみじみとした心境で太子の遺徳を偲ぶよすがとすることが最大級に重要なことかも知れないと思った。画伯の並々ならぬ思いと、ほどぼしの意欲を感じ取ることが出来る。それを扱つるのは杉本画伯をもつて代えがたき逸材のお方と理解するのである。画伯は、その高邁な使命を引き受けられて、五年余に及ぶ歳月を費やし思想、哲学、信条、情愛、思惟、実存と云つたあらゆる人間的な観照を凝縮させてこれ

を遺憾なく發揮して、優美な太子像を普遍的に追求、完成されたものと私は考へてゐる。

画伯は、雄渾にして且つ壯麗な太子像を理想とするそのお顔を描くに當たつて隨分と悩まれた。そこでお顔を最後に描くことにして、その部分を半紙で張り付けて覆い隠して周囲の部分を仕上げたそうである。お顔を描くにあたつて浮かんできたのが奈良東大寺にある戒壇院の広目天であった。四天王のうちの一體の広目天については奈良を訪ねた時と、国立東京博物館で開かれた奈良の国宝展の時、そして日本橋の三井本館で開かれた美術展で親しく拝観したことがあって、私も美術的に優れて強い印象を抱き、広目天の優れた風貌に忘れがたい記憶を持つてゐる。広目天のその表情は、遙か遠くを見つめる深淵で哲學的なまなざしと、思索的で思慮深い表情がむしろ比類なく力強い感じを与えて、強く胸に刻まれてゐる。一面に於いて瞑想的であり威厳に満ちてゐる。想う

に広目とは、広く世界を見渡し、万物を見据えて根源にまで及ぶといつた、人間の存在と思想を超えた意味合いがあるのでないかと思うのである。広目天の尊嚴な表情には、そうした云いがたき意味合いが厳肅に漂つてゐる。画伯はその広目天の顔に惹かれ思ひを込めて、太子のお顔を最後に描かれたそうである。同時に為政者としての普遍的な理想像を象徴した形で、現実的で経世救濟の現世肯定的な理想像を描きたかったのではないかだろうか。この聖徳太子像は、四天王寺繪堂の中央扉を開いて立つと、み堂の正面の真中央に拝観出来るのそうである。

まゝいろいろのこもりて熱き巻紙の尾張の友ゆたよ
り届きぬ
おくやまに湧きてながるるま清水の友の思ひの
墨のあとかな

民衆の安きを治めこの国の先を示せる聖徳太子
は

聖徳のみ代を治めてこの国の形を作り今に至れ
り

春の日の注ぐ御堂にあきらけく太子の姿のひか
り浮かびく

みこころを高く示していくにたみの安きを願ふ太
子まします

そのままに威徳を偲びふつふつと太子の姿前に

あほぐに
やまかわに湧きて流るるま清水の友の毛筆の便
り読む春

まほろまを聖く治めてこの国の形を今に示した
まへり

菜の花の咲く野辺に立ち眺めやるおほきみ寺と
高き塔かな

紅梅の炎となりて咲にけり四天王らを祀るこの
寺

聖き世を治むる聖徳太子像それを守れる広目天
とも

太子像描く画伯に推し量る広目天の旨しその顔
聖君の優美にこそ見て比類なき尚法界を広く臨
みて

優雅なり聖徳太子のみ姿の氣高く人のよすがな
るべし

瑞雲を背にこの世を眺め給ふその面ざしのかし
こみて見ん

天平のみ代の栄へに聖君の姿偲べる太子像なり
この寺に杉本画伯の筆による太子のみ顔を押し
たまふに

この寺に氣高く香る聖徳の治めし太子の威徳し
のべり

ひそやかに咲く紅色の山つばき戒壇院の庭のた
もどに

菜の花のゆるる彼方におほてらのいらかの屋根
と高き塔かな

白壁に描く聖德太子像杉本画伯の渾身のあと
かしこみて仰ぐ聖德太子像わがまほろまに今も
あられり

戒壇院に祀らるる四天王凜々しく邪鬼を踏みて
立ちます

面白く楽しくわめく餓鬼のつらむしろ人ざまの
性に合い似て
法界をうすすきまなこに見渡して根源にまで及ぶ
英知よ

果てしなきこの法界に我たつにただ無と感じ云
ふことのなき
満天の星を仰げば常づねにこの法界の謎に迫ら
る

餓鬼の面にも捨てがたき性ありて喚く声さへ聞
こえくるなり
この世をば徳政を敷き愛の手を差しのべ貧しき
民を救ふと

願はくばわがまほろまに安寧の榮への道を授け
給はん

類ひなき秀でて高き信念の太子のみ顔描く画伯
は

四天王てらのみ堂の太子絵を花の盛りに見にも
行かむや

みこころを今に示してまほろまの安きみ民の行
方あらしむ

奈良やまに吹く春かぜに草木の芽吹きてうまし
大和まほろま

春風の招きに遭ひて斑鳩の旅に出でむとそぞろ
思へり

そよ風の吹きすぐあした山ざくら咲きそふ間に
そ急ぎ散りなそ
四天王てらの絵堂のしろかみに太子の像のすぐ
れ描かる

まほろまを聖く治めてこの國の基礎と形を今に

三月決算期

示せり

白壁に描く画伯の渾身の筆に全き太子像かな
あるままに威徳を偲びふつふつと太子の姿を前に仰ぐに

2月19日

慌ただしい3月に入りました。

勇んで仕事に励みましよう。小生は、先ず歌から朗らかに始めます。仕事の合間も含めて、いつも思いついては、瞬時に詠んだものです。そして私の歌は口語文でなく、全て文語文で読んでおります。

けふよりは弥生の花の季節なり余も若やぎて野に遊び出む
あきちゃんと花をかざしてお互ひに見合へば若き頃を思へり
そよがぜにすぐにな散りそ山桜妙なる姿飽かずめでしに
奈良山を吹きすぐ風のいつしか花の匂ひにかほり染めしか
春を告ぐ花の便りの田舎より早う届や我れが都に

昨夜より春の風の收まりてほゝろぶ花のつぼみ
数えへり

草木の芽生へと花の香りなきさらざる街に春
の風かな

梅の木の根元に生えし蘿のとう朝なに摘みて籠
に收めし

如月の寒きあしたに先駆けて土より出でし蘿の
とうかな

いまさらに色も素つ氣もなかりせば引つ込み思
案に落ちることなし

三面鏡まじかに見据え語りあふ自信のほどを披
歴し合ひて

真向ひて鏡に映る我が面に未だだと自信のほど
を聞かせり

広目天据へしまなこに吾も和紙、筆とを持ちて世
にそ臨まん

さはやかに彼方を眺むまなざしの広目天にしく
るものなし

強力の足で踏まるる邪鬼らみな顔をしかめて痛
がるらしき

自信こそ生命力と感知して己れ自身に言い聞か
せけり

法輪寺法師と語る杉村氏ふかき悟りの道を示し
つ

うららかな春の日差の照り返す床の間を背に法
輪寺の僧

床の間を背に語らえる住職の和みも床し法輪寺
の部屋

春浅き庭の石にも萌黄たつわずかに苔の蒸する
氣配に

仏法を解く掛け軸の豪氣なりその墨あとの和紙
にあづけし

大居間に眺むる岩の苔むして春のしぐれに色さ
めにけり

潑刺と迎ふ弥生のあめつちの光みなぎる野にそ
いでもや

春雨の艶めきぶりて万象の命と色のよみがえり
けり

あたたかき南の風の吹きそよぎ春さめ清くそそ
ぐ今朝かな

春雨の音に目覚めてすがすがしきる色にも心
ひかれり

昨夜よりしきる冰雨の和らぎて早や温かく変わ
るこの期は

様々な恐ろしきこと世の中に襲ひてくるも怖じ
るべからず

たとへ死の影を歩むも恐れまじ我を守れる主が
共にして

聖書より生きたいのちのみ言葉を授かり先を勇
み行かまし

主と共に歩む道こそ樂しけれ妻が常々云ひしこ
となり

我に日々欠くこと無きと思へかし満たせる日々
を感謝こそそれ

万象に注ぐ小雨のあたたかき春の兆しを思ふ庭
畠

降る雨も樹木を癒し綠なる命を与ふ春の来たら
ん

この世にて株の上げ下げは常道にさは景気づけ
に上げを良しとす

今の世の超金融緩和にて金の行き場が無しと思
案す

大方の民は金欠に日々悩みなれどじやぶじやぶ
と金はあるらし

正念場を迎えるアベノミクスなり株と為替の動き
如何に

均衡のとれた相場に經濟の実態が振れ良くも悪
くも

明らけし株の上昇に含み益いでて勘定は良き結
果にも

暴落ののちアク抜けの思惑に株価上昇に弾みつ
くなり

見渡せば遙か彼方に舟の行く小島帰りの連絡船
よ

この国の豊かなさまに驚きぬ戦争のなき平和な
るゆえ

日のもとに榮えし國に我生きて良き先達に学び
感謝す

親指を上に突き上げ勝ち誇るが点のアイズと受
くる冠者に

斜め下ともとに落とす眼差しの哀しみこもるイ
エスその人

おぼぎ見る母のマリアの悲しみのみ子を見つめ
る痛み覚へり

み子を抱き注ぐまな」のうらがなしあはれ定め
の若きマリアよ

平和主義國家の上に安堵して民は勤労にすぐる
所以に

夢に見る暗黒時代に東条やヒトラーそして今は
アサドと

様々な試練に立つも恐れまじ戦火をくぐる昔思
えば

この世にて欲を抱けば限りなし身軽に生を味は
いていく

人はみないつかは死にて王様も乞食も共に永久
冥途に

恐ろしき夢に東条・ヒトラーに今はアサドと時を
汚せり

今宵又僅かの酒を口にして天下泰平と云い聞か
せけり

何かにと騒ぎ立てては自らをひれかす人の愚か
なりけり

恐ろしき女だてらに欲をかき人をおどして金を
奪へり

人づらは驚くほどに磨き立て心の卑しおんな顕
はに

この女の亭主を貶しなほ憎み人に告げ口しては
ばかりじ

難民の女子供のあまたいて小舟に乗りて海を渡り来る

ひもじさに耐えて荒れ野をさまよいつあはれ難民の放浪の先

ブーチンもオバマも無知に打つ手なく欲が絡みて引きあひにけり

難民の死の行軍に等しきに世界が救ふ術を打つべし

内戦にあまたの死者を街なかに投げ出し始末のおぞましきなり

朽ち果てし瓦礫の下に幼な児の吐息の音のやがて小さく

アサドてふ馬鹿者がいて世を乱し貧しき人を痛みうむけり

くにたみの多くを無残にあやめるたる鬼畜のアサドを葬り去らん

暴君の狼藉も又毒々し十字架にかけ裂きて葬らん

内戦の続くシリアにこの度の停戦合意を得るはチャンスと

合意後の本格的な撃ち合いのなく打ち過ぎシリヤ全土に

しかばねと残骸の後の地獄絵に平和と光の希望描かん

アメリカの大統領選を見習ひて自由闊達に議論し合ふに

トランプの候補の暴言極まるもこれを許せる雅量のアメリカ

ヒラリーにサンダース候補が加わりて政治をするも國の為なり

トランプの歯切れの良さに民衆の喝さいを浴び波に乗るなり

トランプの支離滅裂の舌鋒の攬乱戦法に面白さも見て

トランプの過激発言にアメリカの変化を求む風潮にあり

アメリカの従来型の政治的手法に民の不満うねり来る

マンネリを打破し新風を巻き起こすトランプ候補の善戦に見張る

トランプの善戦のあとの意外なり大統領の風格も見えて来る

トランプがアサドにいかに手を打つやもし大統領につく日來たらば

大統領勝利戦へと近づきぬクリントン・トランプのスーザー・チューーズデー

アメリカの開拓時代を髣髴す異端児トランプの突如現はる

候補者の次第に狭まる接戦と激戦をみて注目の今

トランプの選挙運動の波に乗り放言・暴言の止まぬ気配に

上海に開くG20の財務相・中央銀行のお偉ら方々

中国が議長を務める会議にてお膝元より揺らぐ
経済

株式の暴騰・落と繰り返す市場を見据え開く会議は

マルクスが解く経済優先の社会こそアベノミクスに似たる点なり

マルクスも株式投資に失敗し思惑経済の難しさ得て

ケインズも経済優先の社会にて完全雇用を目的とせる

一年余胸を痛めしことありて決断のあと王道にかかる

この度は心を静めバイブルの詩編二十二章を感謝して読む

晴ればれと空を仰げば紺青の色も瞳に染む心地なり

繰り返し読む主は我我が牧者なり常に豊かな恵み与へり

トランプの目を逆立てて怒り居るアメリカ社会の矛盾晒しつ

トランプの噛みつきさまに吠えまくるアジ演説のヒトラー似て

熱戦の旅に風格も備えきぬトランプ候補の怪しその影

暴言を吐くも程度をわきまえぬことなりせば素質問はれむ

品格も欠くべからざる要素にて米大統領の素質問はれる

アメリカの大統領の選挙なりされど世界のそれと同じじと

玄関の床に小さき守宮いて壁に張り付くまでを見守る

友人の封書に今村美代子氏の写真のありて昔偲べり

瑞穂区に住む良き友の封筒に昔の女の写真ありけり

懐かしく偲ぶ今村美代子氏の写真に一句を思ひ出しけり

春日井の町を流れる長良川船をあやつり鵜飼樂しむ

今井氏のその後の便りなかりせば遠き昔を偲ぶよすがに

一度のみ尾張にて会ふ女なれど鵜飼を楽しみ宵を過ごしぬ

梅の香の白き月夜に匂ひきて心に甘く深くしみける

内戦のシリアに停戦の合意得てその後の戦闘無きはうれしき

停戦の持続可能な条件を双方納得せしは良きなり

内戦に暮れて難民の続出し自由の土地を求め行く民

内戦に犠牲者あまた続出し地図より国の抹殺されぬ

世界卓球選手権

日本が得意とする卓球のスポーツで今、世界卓球選手権試合が行われている。昨日は我が日本の女子選手らが、強豪の北朝鮮を破り見事準決勝に進んだ。15歳の伊藤選手の熱戦に夢中になつて応援して観戦していたが、熟練度と精神力はずば抜けでいて感動を覚えていた。福原選手、石川選手、そして伊藤選手の不屈の精神に対し賞賛を覚え、この年になつても大いに教えられて勉強するところで感服してやまない。幾多の名場面で、伊藤選手が見せてくれた相手とのラーリーのやり取りにはむしろ素晴らしい華麗さを味わうことが出来たし、結果18対20というロング試合を演じるという凄まじい試合となつた。また男子選手も今日の試合で熱戦の末イングランドを撃破し決勝に進んだ。

男子、女子とも優勝した暁には、何十年ぶりの快挙となるそうだ。その女子の決戦は、日本時間

で明日の午後3時から同じくテレビ東京で観戦できる。いつもは経済番組でもハイレベルの知識を身につけてもらつて、さすがに知的グレードの高いテレビ東京ではある。朝早くから始まるモーニング・サテライトでは、ずば抜けたスタッフが揃い迅速、明快な内外の経済ニュースを意義深く提供してくれる。番組のリーダーの采配振りは定評があり、幾多の難問を簡潔明瞭に報道してくれて毎日の経済活動に役立つている。この番組を見ずして会社に出勤することはできないと同じよう、多くの金融マンや営業マンにとっては必見の番組である。この世界卓球選手権にしても、専門外のスポーツ分野でありながら他局では真似のできない、実に良い番組を組んでくれると感謝でいっぱい、あしたも優勝への王手をかけた試合である。女子チームの世界ナンバー1の強敵・中国との戦いの観戦である。中国選手は男子、女子共に個人的にも、チームとしての団結力も、ず

ば抜けて高い戦闘能力を持つてゐる。技術的に勝り、持久力にも力を發揮してゐる。技術、体力、精神力に見習う点が多く、油断できない相手であり、緊張の戦いになるし、レベルの高い熱戦が見ものである。まず最初の戦いで相手に勝つてプレッシャーをかけて行けば、作戦的に成功するだろう。決戦試合に声援を送つて観戦したい。頑張れニッポン！

横浜の仕事を終えてドルフィンの店のステーキ食むは樂しき
日本の名誉にかけて奮闘す選手の世界卓球選手権
夕食後妻と世界の卓球の日本快進撃の試合見るなり

3月5日

この度の世界卓球選手権男子・女子とも決勝に出でり
声援を送り見守る卓球の世界試合に胸躍らせり
卓球の世界選手権の優勝を目指す日本の活躍に期す
選手らの大活躍にリーダーの女子福原と男子水谷
熱戦にもろ手を挙げて応援す妻と観戦の世界卓球

世界卓球選手権試合では、決勝に進んだ日本チ

ームが、男女とも対戦相手の中国チームに圧倒的な実力の差で敗北した。残念である。観戦中終始ハラハラする場面の連続で、声援に疲れ切つてしまつた。応援団も、疲労困憊で完敗の心境である。

今回も中国に金メダルを持つていかれ、日本は二位の銀メダルに甘んじたが、選手たちの健闘に拍手を送つてゐる。頂上を目指すことの至難の業は言わずもがな、日々に鍛えあげた実力は、その時のわずかな調子の加減でぶれてしまうことがある。絶頂なコンディションの状態に持つていく精神的な胆力を鍛える努力も大変なことである。優勝を逃した戦いであつたが、卓球の醍醐味を堪能することが出来て素晴らしい結果であつた。

3月6日

春雨の音

春雨の音に目覚めてすがすがしきる色にも心ひかれり

この季節に雨の音に気付いて目が覚めたのは、ここ近年なかつたように思つ。音に目覚めたくらいいだから、かなり激しい音に違ひないが、さほどに雨の音は大きかつたが、そんな荒々しい気持ちには抱かなかつた。春雨の音だからであろう。カーテンを引いて庭の様子を見たとき、激しい降りであつたが、何となく雨の筋に優しさがあつて心の隅から隅までが洗われるようなすがすがしさを感じた。目覚めた時だつたこと、春先の樹木の芽生えを促すようあなたたかく優しい春の雨だつたことによるからであると思つた。音は雨の糸の太さにもよる。そして雨の糸にも色を感じるくらいである。激しい雨の音は、雨の太い糸によるも

のだから、糸が細くなるにしたがつて音も小さくなつていく。雨が上がるときはそうした雰囲気を表している。

今朝降り続いた雨の糸をまとめておほつてみると、朝に霞をかけたような白々とした世界であたり一面がかすんだ色である。何とも言ひようのない微妙に、まる味を帯びた清潔な艶やかさである。それは雨の恵みを深々と、しめやかに味わえる色合いであつた。その後、その雨は次第に鎮まつてきた。そのあたりに時間の経過がわかるくらいの、わずかな空間であつた。雨の糸が消えていくように辺りがかすかに明るくなつてきて、薄日が差すくらいの空に変わってきた。恵みの雨が、喜びに代わるようである。これは朝に経験した、春雨の綺麗な移ろいのひとときである。そんな時にふと口にしたリズムが言葉となつて出たのが、冒頭の一首である。この日の朝の雨が、春のなまめかしい季節の訪れを告げてくれる。そしてこれ

から先、穏やかで明るい春のひかりの季節を運んできてくれるはずである。うれしいなあと思つた。

春雨の艶めきぶりで万象の命と色のよみがえりけり

3月7日

昭経俳壇の今村美代子姉

十数年前になるが、昭経俳壇に投句されて、いた今村美代子姉が体調を崩した後、一時期俳句をやめてしまったことがあった。その後音信不通となつて以来、現在に至つてはいる。今村さんの俳句は色合いが濃く、女性の細やかな感覺が一句に味わえて、私は素晴らしい句評をしていたことを覚えている。

東京銀座4丁目にある交差点にある三越銀座店の横のビルの地下一階に、エスターードと云うパブがあつた。若い頃、友人に紹介されて以来、良い店だったので時々飲みに行つてはいたが、そこの経営者のK女性が名古屋の春日井出身で、相続に絡んだ土地のことで相談に乗つてほしいと頼まれて、新幹線に乗つて名古屋までいったことがあつた。その夜にKさんの接待を受けた時に、居合わせたKさんの友人たちの三人を交えた会食懇談の席となつた。今村さんは、そのうちのひとりで

あつた。他の二人は、夫婦で教師をしていて木村と名乗つていたようと思う。夕方から始まつた接待には、長良川の舟遊びと鵜飼いが含まれていた。宵のとばりが下りてきた頃から、花火が盛んに打ち上げられて、夜の空に華やかな綾帳を下したようであつた。船の上で酒を飲み食事をし、船頭の操る船にゆられ、鵜飼の妙技を見ながら屋形船に乗つて情緒たっぷりな長良川の鵜飼いを堪能することが出来た。懐かしい思い出の一コマである。今村さんはその時、名古屋で今村デザイン学園の園長を務め、商業的にも活躍していた人で、小柄な美人であつたが、職業女性に得てしてありがちな独身者であつた。名古屋市にあるオレンジマンションの8階にお母さんと一緒にすんでいらした。鵜飼を楽しんだ翌日、Kさんらと一緒にその自宅に招かれたとき、お茶を立ててもてなししてくださつた。出してくださつた和菓子がとてもおいしかつた。その時以来、勉強熱心な彼女は昭経俳

壇のメンバーとして加わって7年くらい、毎回名古屋から詠んだ俳句を送つて掲載を楽しんでいた。無論、名句を沢山詠んで残されたので記念に何冊かの本として出版したいという希望を持つていらした。私は、素晴らしい俳句の作品なので有名な出版社から出したらどうですかと薦めたが、恥ずかしいと遠慮されて躊躇気味だった。出版社の担当者は、その目算は十分にあると太鼓判を押してくれていたのである。

今回奇しくも尾張は名古屋の瑞穂に住む杉村大兄夫妻が、かつて今村さんと昵懇の間柄であったことが分かり不思議な縁のめぐりあわせであることを知つたのである。今村さんはその時の一度だけの面識であつたにもかかわらず、俳句を通して人生の奥義まで知り合う仲となつていたこと、そして親しく書面を取り交わす杉村大兄とは未だ一度もお目にかかつたことがないにもかかわらず、人生の深い友達として係わり、先輩と

して敬愛の情を持つことになつてゐる今を思うと、人の世の妙味を得て感無量を禁じ得ないのである。限られた一生の中で何を為すべきか、何を残すべきか、しばし熟慮に過ぎる春の宵である。

友人の封書に今村美代子氏の写真のありて昔懐かしく偲ぶ今村美代子氏の写真のひとの写真ありけり

瑞穂区に住む良き友の封筒に昔のひとの写真ありけり
懐かしく偲ぶ今村美代子氏の写真に一句を思ひ出しけり

春日井の町を流れる長良川船をあやつり鵜飼樂しむ

今井姉のその後の便りなかりせば遠き昔を偲ぶよですがに
一度のみ尾張にて会ふひとなれど鵜飼の宵を過ごしけるなり

尾張にて一度まみえし人なれど長く俳句を通じ
親しむ

昼食の間

歌詠みのひと時 二十首

3月10日

起業家の道を目指して若者の創意工夫を競ひあ
ふよし

笠井氏が金儲けの種持ちてきぬ無沙汰のあと
笑みを湛えて
トランプの暴言を吐く下劣さにヤンキー族が反
旗かかげり

あのままで軌道修正できぬなら早や大統領の素
質疑はる

政策の論争ならず下劣なる攻撃跋扈の大統領選
軽薄な議論に飽きて民衆も気を取り戻す気配な
るかな

アメリカの命運危惧す将来の道いかがなり大統
領選

政策の基本を論ずいとまなく喧嘩まがいの非難中傷

いまだ良し日本の立憲民主国知性と品位の多少なるとも

議員諸侯にも悪しき身の者もいて自然淘汰に消え去りしなり

原発の再稼働中止の仮処分決定下す大津地裁は
画期的判決となる原発の大津地裁の稼働中止の
判決に悲喜こもごもの地元にて利益うる人得ざ
る人とで
たまるほど汚くなるは灰皿と金とはよくぞ云ひ
抜かしけり

周辺に欲に絡んで悪させる人の絶えざる世のき
たなさよ

平然と他人の金に手を付けて居直るインテリや
くざと称し

東北の大震災の惨状のいまだし残る五年へてな
ほ

教会の日曜礼拝に妻と行くさなぎまなこと捧げ
祈るに

願いこと持ちてイエスに打ち明けぬ胸もとすが
しまリアにも又

献金のわずかながらも東北の大震災の被災者の
もと

おおなると大き津波に襲はれし東北の地の荒れ
しさまなり

春まだし朝のひさめにほころびし梅のつぼみも
硬く身を閉づ

ヒヨドリの餌をくれよと目の前にさえずり来れ
ば応へけるなり

3月14日

先ごろ詠んだ和歌を見ていたら自分を促す元

氣な歌に接したので、改めてそれをコピーして諸兄に披露し、お互に奮起を促す些少の糧にもなれば幸いと思つた次第である。

三面鏡まじかに見据え語りあふ自信のほどを披露し合ひて
真向ひて鏡に映る我が面に未だだと自信のほど
を聞かせり

広目天据へしまなこに吾も和紙、筆とを持ちて世
にそ臨まん
さはやかに彼方を眺むまなざしの広目天にしく
るものなし

強力の足で踏まるる邪鬼らみな顔をしかめて痛
がるらしき

自信こそ生命力と感知して己れ自身に言い聞か
せたり

アメリカの大統領選挙

米大統領選挙は華々しい話題に事欠かないが、老いても尚華麗に振る舞うヒラリー・クリントンといささか品に欠いて乱暴丸出しの元気なドナルド・特朗普（69）が勢いをまし、大統領選挙は意外性を出して二人の一騎打ちとなる公算が大である。政治家は体力が武器である。知性、感性、品性、哲學、思想、信条の点については兎も角、一人とも健康においては異論がない。ここで注目するのは、特朗普である。昔プロレスのリングを騒がせた人気者のプロレス選手、銀髪のプラッシューを髪飾させる面構えだ。プラッシューはリングに上がる前から吠えたりて銀髪を振りかざしながらやつてくる。対戦するといきなり相手のおでこに噛みついてきて、最初から流血試合となる。如何にも動物的で攻撃的であり、その野蛮性が受けて、ルール違反を平氣で犯かすところは試合の常道であった。観衆はそれがスポーツの戦

いとして本気で応援するものでなく、一つのショートとしてみているので、それがファンの人気を受ける理由の一つである。特朗普もショーンとして軽薄にみた場合は確かに意外性があつて面白く、ルール違反を巧妙に演出して民衆の関心をそそるものとして見ている分には問題ない。おれでも仮にブラッシャーが反則を犯しながら優勝するとしたら、観衆はこれをほおって見ているわけにはいかないだろう。ブラッシャーの戦いはいつも終りには殴り合いと噛みつきで血を流し場外乱闘となつた。だから試合の判定はいつも銀髪のブラッシャーが反則負けで滅茶苦茶に終わつて、試合にならなかつたのである。腹いせに優勝ベルトを持ったまま、会場から逃げ去つていつたくらいである。これもいかにも陽気な振る舞いである。

これを今のアメリカの大統領選に重ね合わせてみるといかにも悲惨すぎるが、特朗普の戦い方には、聊かこのプロレス試合に出てきた銀髪

のブラッシャーに雰囲気が似ている。銀髪ブラッシャーの試合はいつも噛みつきと殴り合いでリングは血みどろの阿修羅世場となって、しまいには場外乱闘で試合にならなかつた。先日の大統領候補の演説会場には、そうした人気を博して支持者たちが集まつたが、候補者の演説会場は候補者同士の非難中傷に終始し、支持者、不支持者同士の間でも乱闘騒ぎが起きて、警察官が出動して事態を治めたという話である。これではしつかりした政権の立会演説会とは言えない。将来が思いやられる。

物議の火付け役の特朗普は、プロレスラーの銀髪ブラッシャーに不思議と顔もそつくりだし、体つきも恰好も似ているし、議論を仕掛ける戦術もブラッシャーのプロセスと大して変わりがないところが、面白いと言えば面白いし、余りの意外性に唖然とする思いもある。一二で問題にしているのはそう言った程度の高い話は無理だと思つて

いるので想定外であるが、事、トランプの体力、気力には圧倒される思いがして、大いに参考になると思つたのである。プロレス選手の全てに云えることであるが、品は兎も角、選手のスタミナには驚くべきものがあり、何を食べているのか、どんな生活をしているのかと云つた点を勉強することは大いに利する点である。中でもブラッサーについてはことのほか強く印象に残つてゐるので敢えて記述したが、そもそも話題のトランプ候補が、プロレスラーの銀髪ブラッサーに似てゐるといったことを敢えて強調したかつたのである。

ひよつとするべく誰がどめても聞かないあの言動の激しさは、やんちやつぱさの自己満足なのか、自己催眠術にかけた長寿健康法を実践しているのか、きっとそんな程度のことかも知れない。本気度100%だとしたらもう少ししつかりした言葉を吐き、しつかりした姿勢で臨んでもらわないと、事はアメリカ大統領の候補として立つて

いるのだから、しっかりした政見を聞かせてもらわないと、みんなが当惑してしまうだろ。プロレスは兎も角として、かつての残虐極まりないドイツのヒトラーみたいなアジ演説で危機意識をあおり、民衆を駆り立て拳句に洗脳したりして、アメリカを変な方向へ持つていかれても困るのである。

ドナルド・トランプが出てきたことでアメリカの従来型のパターンとは違つた思惑が国民全般にうごめいている」とも事実であり、其処を衝いてトランプ旋風となつて、惰眼をむさぼるアメリカ全土に問題提起を誇つてゐることも事実である。改革、改善は良しとしても、やたらに混乱を巻き起こすようでは、良き伝統に立つ立憲民主主義のアメリカとは言えない。69歳の快男児、否、異端児のあの積極性と意気込み、パワーは、さすがだと思つて大いに参考どすべき点である。競争相手のルビオ（44）はまるで小僧扱いで馬

鹿にされている。テッド・クルーズ（45）も同じである。人生ギャリアを誇るトランプのそのパワーに知性と感性を加味した姿勢が加味されて、戦略的な軌道修正を考え出してもいいのではないか。そうすれば、政策的論議も徹底的に議論しうるし、ただ非難、中傷のマンネリから抜け出して、有意義な政策的論争となつて、大統領選挙にふさわしい雰囲気になつてくる。

トランプにしても、共和党からの大統領候補として立つには、選挙戦で過半数を取らなければ、民主党の候補と戦うことはできない。党内からトランプ降ろしが出るようでは、政策的に間違つていることになる。予先はあくまで民主党候補に対して行わられなければ、最終的には意味がない。未知数の男に期待をかけることも結構だが、過激な発言を繰り返す彼に、冷静さを求めるることは難しいし、緊急事態に対して無謀な行動を取られてもまづいという危惧の念は打ち消せない。それで

もかつては民主党の我がままブッシュだつて妄想の末イラク戦争を仕掛けて、あととの始末はこのあたりまだから、まともに信用できる人間、政治家は東西古ないないと云つてかまわないだろう。だからと云つて、ないがしろに出来ない厄介な問題である。自動制御装置の電気自動車だからと云つて、運転免許を持たない人に、いきなり高速バスのハンドルを握らせるようなもので不安であり、危険である。包容力の大きな多民族国家、同時にアメリカ合衆国歴史伝統の大統領選挙である。とりわけ最近の人口構成に劇的変化がある国情を踏まえ、民意に大きな変化のうねりがあり、経済格差を理由に人種的な対立が傾向として浮上してきており、人口に占める白人の比率が年々低下傾向にあって、白人構成が50%を割るような情勢、そしてインドや中国といった、とりわけインドの人による経済界進出なども際立つた現象である。こうした人口構成を取り込んで、

包容力、実行力を持つた大物政治家が指導力を發揮する社会が望まれる。従来の定型化した政治家タイプから、従来の選挙方式からすると異質のタイプの政治家が出て来るところに、そうした思潮の台頭の大きな変化を読み取ることが出来る。トランプは政治経験がないし、専ら事業経営で成功した人物である。しかも過去には何回かの会社経営に失敗を重ねてきている前歴がある。苦労人から上りしがつてきたつわものであり、個人的には恐れるものはないだろう。破竹の勢いは、むしろ妬み、つらみ、恨みを買ってテロに合わない限りは大丈夫な人間である。異色の人材であり、何が起るかわからないところに、アメリカ的有権者の発想と勇気が試されていると云つて良いだろう。

民主党的候補者については、順調に有権者の支持を獲得するヒラリー・クリントンが有力である。トランプが仮に過半数を取れれば別だが、そうで

ないと党大会での決戦に持ち込まれる。そこで又トランプ旋風が起きて、従来型で平凡なクリントンの影が薄くなつて、大統領の椅子がトランプにとってまじかになることも現実味を帯びてきた。だから今回の選挙は、泡沫候補だったトランプが暴言を吐きながら、周辺の罵倒をあびながらも自分の流れを止めず、俄然脚光を浴びてのし上がってきたところに面白さがあり、反体制派のトランプではあるが、アメリカのただならぬ雰囲気を感じるのである。大国アメリカの底流に何があるのか、その変化が興味津々なのである。自由主義、社会主義、専制君主主義の国家等々の政体を問わず、いずれの国家形態においても、東西古今、程度の差はあっても政治と金の問題、権力と利権の関係を断ち切ることは難しい。アメリカもその例外ではない。一部の利権と結びついてきた利益誘導型が多い中、私財を賭けて出てきたアメリカ魂の人物をどのように評価するか、低所得者層を広

くとりこんで、ウォール街を敵に回しながら票の獲得に走るトランプはまさに異端児である。どう

いった人がアメリカの次期大統領に選ばれるか、次の世代を担う指導者選びだけに、アメリカ国民の真意と良識を問われる大きな決断であり、同時に我々にとつても重大な関心事であつて世界が注目する長丁場の選挙となる。

トランプが目を釣り上げて怒り居るアメリカ社会の矛盾さらしつ

3月17日

厄介なマジックコネクター

しばらくホームページの掲載の中斷を余儀なくされていたこともあつて、頭の念力、粘液の滑りが悪くなつてしまつたが、その間、周辺を驚かす事案が多く起きて、世の中が確かに連続して動いていることを実感した。従つて「春眠暁を覚えず」ではないが、いたずらに惰眠をむさぼつていわけにはいかないと思った。ホームページを中心とした余儀なくされた理由は、通信機器関係を担当する会社の管理の不行き届き、即ち春をむさぼる惰眠によつて引き起こされたもので、はなはだ迷惑千万な話である。修復を図るのに時間がかかり、金もかかるというのである。ケチるわけではないが、怠け者の負担まで負わされたではないが、泣く子と地頭には勝てぬで、兎に角早く修理してくれと頼んでいる次第である。会社にいふときはどうしても商議的時間に費やされて、頭を冷やし執筆する時間は制限されている。従つて専ら

家で仕事の合間を見ながら気分の赴くままに書くことになる。どうしても会社と自宅に繋がった

パソコン操作が必要になるので、マジック・コネクト機能は欠かせない。

こうしてほぼ二週間が過ぎたわずかな間にも、周辺には重要な課題が発生しており、われわれの生活に陰に陽に影響を及ぼしているのが現実である。多くの苦楽を含んだ話題に事欠かない。

二十八年度予算の成立

昨日には、平成28年度の国の予算が9.6兆7000万余に昇る過去最大の規模で参院で可決成立した。予算の執行は迅速でなければならない。

地方経済の停滞は顕著である。これらを補助支援する意味で明朗な実施で対応すべきである。又今回初めて防衛費に充てる予算が初めて5兆円台に乗せた。北朝鮮の核開発と挑発行為に対するもの、中国の海洋進出に対する抑止能力の増加を見越すものである。加えて安保法の施行もあって、装備訓練と云つた経費も含まれる。

最近の消費の落ち込みを見ても分かる通り、懸案の消費税の引き上げは無理である。ノーベル賞受賞の経済学者の意見を聞くまでもない。巷の身近なあきんどの実感を聞いて判断した方が的確である。敢えて言えば、無理な増税は危険であると安倍内閣の政策ブレーンの浜田宏一内閣官房参与が早くから云っている。景気浮揚を図ろうと

しているのに、子の低迷傾向の強い時期に増税すれば、消費意欲を損なうことは当たり前である。景気回復に水を差す結果になる。もう少し市場の推移を我慢してみるべきである。

民主党と維新の会が合併して、新たに党名を民進党とした。しかし飛びぬけていい名前だとは思わない。3月27日に衆参156名となって再出発である。党首には岡田代表を決めた。これで取り敢えず野党結集がなされ、自公政権与党に対立する構図が出来上がった。とにかく強大な自公政権に対抗し、党勢拡大を図るとともに、来るべき選挙に於いて少しでも議席を獲得できるよう結果をだす努力が必要である。民主党政権時代に解散をして、結果の大敗北がトラウマになつて、民主という名前に対するアレルギーが強い。それと民主と云うと、あの出来そこないの鳩山とか、菅とか、野田と云つた風変わりな奇人変人の類いが印象として残つてゐるので、仮に彼らが再び台

頭するようだと、ノーハンクなどとか、おばさんが出てきたりして、ぬるま湯につかつたような気分になつて伸びきつてしまふのではないかと云う危惧がある。岡田が現在党首になつて頑張つてゐるが、中庸を得て落ち着きがあり、良いタイプで包容力もあって器のおおきな政治家だと思つてゐる。女性起用は結構だが、子育て支援、待機児童の問題について国会でよい質問をした位でいきなり政調会長に異例の抜擢をしたとしたことは云いとしても、少しほしゃぎすぎではないかな。今の自民党に対抗しうる政策論議を任せられるには未知数で力不足ある。おつと失敬した。自民党の政調会長も女性だつたか。

今日、男性諸君とお見えになつた大手建設会社の医療チームのリーダーも女性であつた。また、昨日所用で尋ねた役所の担当者の上司も見目麗しき女性であつた。女性の活躍する姿が目につくのは、政治の世界だけではない。こうしてみると

私の職場の関係者には多くの女性が活躍していることに気付く思い出日を見張つたのである。

下鉄に乗つても最近は女性車掌が多いし、宇宙飛行士だつて女性が参加して、地球の周りをぐるぐる回つている。女性活躍社会の実現はそう遠くないと思つた。逆に男性諸君の意欲減退を憂慮する始末になつても困る氣がする。集団的自衛権の行使で、怯える男性に代わつて、女性の勇躍する躍如とした姿も頼もしいが、決してそういうことを期待してはならない。決してあつては欲しくないない現場であり、現状である。平和時にこそ、女性の活躍する場面が多くなつてくるのであって、それを支援するのが、本当の意味での男子本懐の至りでなければならない。戦争を起こすのはいつも男である。役立たずの、ひ弱な男である。金に目がくらむ男、愛に目がくらむ女、行き過ぎは困るが、どちらと云ふべきは当然のことながら後者だらう。

北海道新幹線の開通

津軽海峡の冬景色は哀愁のこもつた恋歌だが、実際の厳冬期の津軽海峡の荒れ狂つた海は想像を絶するものがあつて、連絡船も途絶えてしまう。高等学院時代の修学旅行に北海道の道南地方を5泊6日かけていつたことがあつた。上野駅から夜行列車に乗つて青森についたのが翌日の午後であつた。青森からそのまま津軽海峡を渡つていく連絡船に乗つて函館を目指した。南の玄界灘と一緒に、北の津軽海峡の波も又荒い。連絡船のデッキに立つて、その時に詠んだ小生の和歌があるが、今も忘れない一首である。同行した当時の文芸評論家の浅見淵先生は、小生の歌のいくつかをお読みになつて、万葉調だと云つてくれたという。当時の文芸部の部員だつた福井雅夫君だつた。彼はその後文学部の教授になつた。これがうまいかどうかは未だにわからない一首になつてゐる。「寄す波の青きしづきのあひに見る函館の

灯は悲しかりけり」と云う一首である。

その荒波の激しく流れる海峡の地下を掘つて、竜飛岬から函館までの149キロを掘りぬいてトンネルとし、其処に新幹線を走らせるという壮大な構想を練つてから52年、東北新幹線とつなげて、青森から新函館の線が3月26日に開業した。これで東京から新函館間を新幹線北斗を颯爽と走らせる計画が実つて、念願の開通にこぎ着けた。海底の地トを走つていくわけだから、海の上から波間に待ち焦がれる函館の街の灯を眺めると云つた風情ではないが、繋がつてみると東京から新函館まで最速で4時間2分で行けるそうである。あつという間の旅である。昔は前に述べた様に上野から夜行列車で12時間余そして津軽海峡を5時間かけて渡つていつたものである。鄉愁を感じて和歌の一首も詠んでみたくなるのは当然である。今では慌ててパソコンを打たないと仕事も中途半端で終わつてしまふ慌ただしさで

ある。小便も近くなる始末だろう。落ち着いて居眠りも出来ない。これではしつとりした恋愛小説は書ける舞台ではない。スピードに乗つて人類はこの先、益々そうした競争が激しくなつていくことだろう。いつも神経を研ぎ澄まして、走つていなくてはならないし、プラントみたいな顔つきの人間ばかりが出来上がつていくのではないか。それにしても便利になつた。飛行機で行つたりすると、飛行場までの距離を行つてゐる間に、目的地についてしまうかもしない。しかし一方で来道する人が増えて、地方活性化に弾みがついて、北海道の魅力がますます増えてくれば、これも時代の要請である。石川啄木ではないが、カニと戯れている悠長なことを云つておられなくなつてきただ。

3月30日

日々の雑感・雑句

パソコンの狂いに狂ふ潮の渦
パソコンの調子乱れて雪崩かな
機能なきパソコンに戸惑ひ花粉症
パソコンに自由剥奪春の雷
狂い咲き機械の奴隸となるわが身
旧式のパソコンなりと春の琴
北海道新幹線や冬の陣
冬眠の熊目覚めたり弾発射
安保施行日本周辺に寒波来る
民進党生まれて恋し山椿
九十六兆の金に浮かれる安倍首相
トランプの暴言放言無責任
トランプの暴言旋風春一番
新年度予算成立花さかり
北鮮のミサイル発射認知症
今更の水爆実験水鉄砲

トランプの目を吊り上げて田打ちかな
トランプとクリントンとの二頭曳き
馬耕する美女は老ひてもクリントン
習近平豚の如くに肥へにけり
青蛙無駄な日韓すれ違い
浅草の花の下ごく人力車
下駄の音ならし仲見世春の雨
対立すイラン・サウジの春一番
難民をなくす手だけはアサド封じ
難民の根を撲滅しけしの花
自爆テロ花のブルージュ散る涙
桑を摘むマルケル首相の赤たすき
白魚や青き目をむくブーチン氏
クリントン夫婦目出度く復活祭
落雷も連続テロのベラルーシ
復活祭艶めく妻の笑顔かな
原発の汚染地に咲くシクラメン
初ね聞く今年も良き日めぐり来ぬ

うぐひすの声もどかしき初音かな
ホーホケキヨ法華經と読む讀經かな

梅一輪月光に汎へ闇を衝く

梅の香に誘われて着く雛の宿

うぐひすの啼く音の止まぬ寺の藪

裏庭にうぐひす鳴きて居座りぬ

ひとり旅花を訪ねて途中下車

内視鏡滑らかに行く春の川

復活祭見直す妻の笑顔かな

十字架の桜吹雪にいのる朝

北鮮の無茶苦茶國家蟻地獄

爆竹に等し北專の断道彈

イージス艦派遣に安堵の花見かな

花の間に眺むおぼろの月の影

二羽に散る染井吉野におぼろ月

海荒れて野球賭博の番屋かな

大震災早や五年へて荒れしまま

人影のなき町に咲く桜かな

満開の花に人気のなき地域

避難地の無人の家の桜かな

朽ち果てし館に鳥のさえずりて

被災地の海辺に咲きしへしがな

すさまじき大震災の爪のあと

被災地の大分今も野焼きあと

豚汁やマツコのような人多き

義捐金募る子供や松の花

被災地の港は春が少しづつ

打つ弾の四番打者も空振りに

爽やかに高校野球の甲子園

懐メロに霧の波止場のディックミネ

端やんが歌ふ大島赤椿

帰り船のどかな波にゆれながら

山椿田端が歌ふ島育ち

ぬるま湯につかる平和の原爆忌

引鶴やミサイル発射の頓馬国

内戦に泣く民衆のシリアル沖

八つ切りにアサドを吊るす鮫鱗かな

地獄攻めアサドを世から追放せん

桜観に平和日本世界の範

第三の矢は春の空高く射て

種付けにアサドとブーチンしてトランプに

トランプにアサドの種を掛け合はし

滅茶苦茶な種付けならむ悪同志

快便に酵素薬味の馬糞かな

担ぎ来て立てるアサドの種案山子

中国の海洋進出豆台風

大国が浅瀬を生める浅ましき

I Sと暴力文化大革命

ISと白酒文化大革命

雛段に世界のリーダー並べけり

ISの上陸はバム浜防風

ふるさとの全てに向きて山笑ふ

水ぬるむライブ会場警備なし

荒れものの彫りものむごく針供養

建国の日に反対す青年ら

春分の日の穏やかによみがへり

けむり立つ奈良の山焼き東大寺

梅白くむしろ冷たく輝けり

我が庵の染井吉野におぼる月

胃カメラの行く先を見て春の川

菜の花に少年の日を偲ぶかな

菜の花のゆるる彼方に富士の山

花疲れ安保反対のデモ参加

七十年撃を破る安保法

落雷やトランプ暴言炸裂す

北鮮のホルシュタインと瘦せガエル

黒豚と肥える主席の北朝鮮

全人代習近平の最後つ屁

ISの若者目覚めよ北帰行

ノ一天氣平和日本の花見かな

良しや良し平和日本の屋形船

隅田川花見と酒の屋形船

花粉症応援演説ままならず

青き日のブーチン面のコバンザメ

クリントン夫婦善哉選挙戦

トランプに勝る品格クリントン

安倍総裁第三の矢の宙に浮く

民進党名の通り行けおらが春

安倍政権助けて存在意義の野党

消費税値上げの是非は学者依り

鰯にも貴重な消費税の名が

南国の火の山噴きて桜島

牛肉の高嶺に庶民はモーとなき

甘利氏の花の總理は遠くなり

ミヤンマーに文民政権生れし初夏

スーザーの道の険しき麦を踏む

麦踏や雨の降るまで暮れるまで

スチーの民主政治の花開く

新幹線受注のインドの賢さよ

スチーのマルケルとなれ花の園

ミャンマーに民主政治の始まる日

軍人が席置く議会なま猿

闇の世にぱつと咲きたるけしの花

東芝もシャープも崩れ年の春

この国に偉人もおれば雲の嶺

花のパリテロの温床とは驚きぬ

日米韓仲良き気配に目白かな

東電の破壊の後の衣替え

原発の金のかかれる後始末

この国の山河を汚す原発炉

われが身に切つた張つたの傷のあと

あさばらけ快便に沸く五臓六腑

快調に便秘解消朝ぼらけ

便通の良き継続は長寿なり

病こそ長寿の秘訣と山笑ふ

魔女の手を離れて自由の宵の春

この夜は春爛漫の日黒川

過疎の血に若者帰る早苗かな

(パソコンの不調に惑ふ春の雪) 三郎

金も名も大糞喰らへと初音聞く
魔女の罠より自由となるおらが春
熱爛に田端義夫のかへり船

花の下屋台の酒や目黒川

ばんぱりにおぼろ月夜の座敷かな
富士の嶺の聖くほがらな花の空

3月31日

春のかがやき

万象の輝きを見て胸ふかく春の息ふきを吸ひに
けるかな

蕗のたう摘み味噌汁に刻みいれほろ苦きあじ深
くたしなむ

蕗の芽を味噌汁に入れわが妻と地味な暮らしも
味はい深き

桜咲く花の命の短きを惜しみつ妻と眺め見るか
も

うぐひすの声たゞたゞし初音にもあたりに春の
盛り覚へし
ねこじやらの花見にゆかむと裏道をそぞろたど
れば妹とあひけり

詠み人の知らぬ万葉のうたにある人の心と花の
色かな

気晴らしに仕事につきて外に出で花見に人と語りあひける

黒々とはたけの畝のひろがりて農家暮らしも良しど思ひぬ

われには時間のあらば広き土地たがやし稻と麦を作らむ
幸いなり和歌と俳句の楽しみを与へし神に感謝する日々

4月1日

今日は、花ぐもりに花冷えが重なつてしまつたが、近所のねこじやら公園の桜がとてもきれいだから見に行きませんかと妻に誘わされて行くことにしたが、それより先に、等々力不動尊の桜も見に行きたいということで車を出して先ず近くの不動尊の境内に向かつた。満開の花を楽しんだ後は、渓谷に下つて下を流れる谷沢川のせせらぎの音を聞きながら散歩を楽しむすべもある。規模は比較にならないが、ちょっととした奥入瀬溪流を思い出しながら歩くのも乙なものである。一帯は丘陵地を形成して地形的にも地球創世の古代の地殻・断層を観察できる貴重な場所にもなつていて、切り立つた地表を湧水が常に落ちて滝となり、その滝は不動の滝と云われている。白衣をまとつた行者の滝業の靈場ともなつていて、落ちた滝水はそのまま渓谷に注がれている。斯様に等々力渓谷と等々力不動尊は、地形的にも宗教行事的にも緊

わたしの花見

密に繋がっている。渓谷は樹木が深く茂つて森閑とした空気が覆つていて清冽であり、都會には数少ない觀光名所にもなつてゐる。また近くには、御嶽山と云う名の古墳が史跡として保存されてゐるくらいである。近頃は、特に四季折々に等々力渓谷を散策しに来る人たちが沢山いて桜の季節も例外ではない。東京・関東地方は今日が一斉に桜が満開となる日である。満開の今日を過ぎると、桜を遠くから見て楽しむのも、真下に立つて見上げて楽しむのも逸してしまつことになる。気象状況は決して良いとは言えないが、このチャンスを逃しては勿体ないと出かけてみるとこととした。

最近、環状8号線に沿つて付近の道路が大規模に整備されたおかげで、一帯が明るく清潔感にあふれて、多摩川を望む景色も素晴らしいきれいである。箱根山系を突き抜けて、遙かに富士の靈峰を遠望することが出来る。等々力不動尊の駐車場

も広げられて、この田も菜々と乗り入れることが出来た。小手毬のように可愛らしい瀟洒で、しかし古びて重々しい山門をくぐると、圧倒するような古木の大樹が聳え空を覆うように枝を広げてゐるには、おのずと壮大な感興が湧いてくる。この日、4月8日の花祭りをまだかにして境内は色々とりどりに沢山の花が飾られていた。子供のころから親しんできた花祭りは、釈迦の誕生を祝う日である。本堂の前には花に包まれたお釈迦様が置かれていた。小さなお体に甘茶をすくつづかけながら手を合わせて、しばし澄み切った心境になつて子供心に立ち返ることが出来た。この日、本堂では護摩焚きが行われていた。僧の読経の響きが重々しく、外に漏れてきた。花見代からの景色をながめた後、公園内の長々とした坂を下りて南に下つていくと古木となつたさくらが満開である。幹を見ていると風雪に耐え切つたような荒々しさが刻まれているが、枝ぶりは華やかな花びら

を付けて若やいでいる。右そでを下つていくと等々力渓谷に至るが、行かずに元の場所に引きかえした。

桜を見に行つたついでに早々とお禊迦様に甘茶をかけて、花祭りの花見を楽しんできた。車に乗つて、さらに近くの深沢の桜並木の花を見行つた。この辺りは昔、呑川が方角を変えながら八雲、柿の木坂の町なかをすぎて目黒不動尊あたりまで伸びていて、川の改修工事で川を覆つたその上に緑道が作られて、昔からあつた呑川の川面を見ることが出来なくなつてしまつた。しかし両岸に植えられていた桜はそのまま残されたので、今の桜を楽しむことが出来たわけである。この深沢区域では、小さな深沢商店街があるので、毎年この時期になると花見と一緒に地元の人たちによるイベントが行われていてにぎやかである。芸能の舞台が設けられて、半ば喧騒氣味に騒いだりしていく花の情緒に浸るどころではなく

なつて逃げ出したくなる」ともあつた。今年も例外ではなかつた。丁度上野の山あたりで、花の下の場所取りが大仕事であるのと、多少規模は小さくとも気持ちはおなじである。この時期、花見酒に興じるもの一興である。そうした場所を垣間見て、そそくさとその場所をすぎていつたのである。

目黒通りに出たので、昼食にそば処の「ぎん屋」によつて軽くそばでも食べて行こうかと話し合つたが、家にポテトサンドを作つてくれてあるので、それが食べたいと家に戻つてきた。昨年入れた植木屋が、一殷に伸びた一方の大きな幹を伐り、枝を払つたとはいゝ、拙宅の庭にある染井吉野の花も見事に咲いているし、花の量は少なつてしまつたものの、わざわざ外に出かけて花見に行く必要もない。人間の心理の可笑しさとでも云うべきか、宅のあるじが忘れているわけではない、その時わが家の桜がけなげな咲く様子が愛おしく見えたので、二人で思わずじつと眺めてい

たのである。

久しぶりに味わつた休日である。午後3時を回つていたが、家内が云つてくれた「ねこじやら公園」の桜を再び見に行くことにした。軽いスニーカーを履いて軽装な出で立ちである。この辺りにまだ残つている広い畑のなかの道を九品仏に向かつて歩いていくと、向こうから狩谷さんの奥さんとばつたり出会つた。自由が丘まで買い物をして行つた帰りで、やはりねこじやら公園の桜を見ながら帰つてくる途中であつた。いい加減な年になつてゐるのだが、童顔なうえに生来の明るい性格が得をして、若々しく見える。大きな屋敷に旦那さんと二人暮らしであるが、一人の息子はりつぱに独立して商社に勤めていてファミリーは安泰である。猫じやらし公園はすぐ目の前だが、辺り一帯ににまだ残されている農地の様子を覗う樂しむのも一興である。盛りには色々な作物が栽培されて、即売の小さな小屋までたてられたりし

て人気を博している。今は耕されたあとがすがすがしく目に映つて、黒々とした畠が見えるのが気持ちいい。たいへん小屋もたつていて、のどかな風景は牧歌的であつて都会には珍しい風景で貴重である。満開な桜は庄巻であつた。広い敷地に大らかに育つた大木だけに、枝ぶりもきれいに広がつていて。小さな人工の小川が流れて咲に入るため池となつていて、それに覆いかぶさるように、花の枝がしだれている。妻はこの様子を指して見事なので見に行ってみたらと云つていてことだつた。まさしくその通り、豪華絢爛の風情に見とれて、しばし立ちすくんで眺めていた。しばらく界隈を散策していないので、九品仏の境内のわきを過ぎて尾山台駅まで歩いてみると、この日は寄ることをしなかつた。

見ないうちに空いていたと思つていた植木畠だつた場所がいつの間にか立派な建売住宅地に

変貌していたり、改装したとみられるきれいな屋敷になつたりしていた。住宅環境の凄まじい変化を見た感じである。景気回復を反映してか、住宅産業は活気を呈してきている。日銀のゼロ金利で住宅ローンの金利を下げさせたことが功を奏している向きもあるが、一方で原材料の高騰で建築費が上がり、住宅価格に跳ね返っている。今、マンション業者が困窮しているのは、建築費が高騰して採算割れしてしまっていることである。同時に土地の入手が困難な状況が一方にある。相変わらずの都市集中化で、都市でも一極集中化の傾向が進んで地方では空き家続出で害が出てきている状況である。昔、都市機能の地方への移転が真剣に熱く論じられたことがあったが、この問題は慢性化し、気が抜けて今や惰性化してしまつていている感がある。東京オリンピックが又拍車をかけている始末で、これから先かなりの混乱が見えて来るに違いない。こうした折、科学文化庁が

京都に一部移転するという決定的に重要な発表がなされた。英断に対し、もう手を挙げて歓迎したい。中央省庁の地方への分散は、地方活性化を進める点で重要であり、将来を展望した発想としても強力に推進していかなければならぬ事柄である。通信機能が格段の進歩を遂げている現在、瞬時にどこにでも情報伝達が可能である。たとえば税務申告すら電子化されてインターネットでの報告、相談になつてている時代である。かようして土地の値上がりも特殊事情を持つた地域だけに限られていて、開発の手は地方に伸びてきていかない。むしろ人口減少を背景に、土地価格は一般に下落傾向に歯止めがかからないでいる。本格的なデフレ脱却は、土地の価格が値上がりしないと決定づけることはできない。都市から地方への波及効果が必要な時期に、そうした決定打が打ち出せない難渋さがある。消費者物価2%上昇といった指標だけでは的はずれた議論に終わってし

まうであろう。拙宅の付近で最近600坪ほどの植木畠が大手不動産に売却されて、あとに戸建て住宅が13棟建てられて販売された。きれいな植木畠であつて、野鳥たちの憩いの場所であつたが、こうした良好な環境が消滅してしまうことは残念な気がしている。土地は特別緑化区域に指定され無税に近い優遇措置が取られていたが、相続が発生してこれが解除された結果である。しかし上記のような最近の経済情勢だろうか、余りにも高い価格が災いして売れないのでいるのが実情である。地方では空き家続出で、その対策に追われている始末である。地方にはもつと大胆な、税的優遇措置を取らないといつまでたつても解決しない問題である。

尾山台駅にほど近く中堅のスーパーが進出して3年になる。東急・東横沿線で巧みな商戦の展開で周辺地域の消費者を引き付けて活況を呈している。競争に負けて同様のスーパーが二つ倒

産して引き上げて行つたが、競争の激しさを如実に物語つている。大手スーパーの離合集散も激しさを増しているが、努力次第で大手に戦いを挑む店も台頭して激しい競争状態だと知つた。実際地元の尾山台商店街も零細企業の小売店が独自の特色を生かして客寄せに懸命である。品質、価格サービスの点で生きる道を模索して懸命である。私はできるだけ地元小売店で買い物をするよう家内にも言つていて、自分でもそうした店を選んで地元経済の発展に少しでも寄与したいと思っている。生鮮食料品などは、特に例を挙げれば魚類は昔からの尾山台駅前の市場にある「魚辰」は、魚の鮮度はもちろんのこと価格においてもスーパーは勝負に負けている。昨日の日銀が発表した短観によると、景気動向指数が下降気味だという不気味な報せが入つた。これではアベノミクスの失速につながつて停滞感を示すことで重大である。現在のところ好循環が広がらないままだ

といふことである。つまるといふ大企業の好調な業績が、中小零細企業に果実となつて落ちてこないということである。こうした状況ではやむを得ないが、消費税の値上げはこの際慎重であつてほしいと、庶民感覚で申したいところである。ノーベル賞受賞の経済学者から聞くまでもないが、むしろ巷の零細企業のおっさんに聞いた方が的確である。事は同様で、さもないとせつかくの景気対策に水を差す結果になつてしまふし、財政問題もさることながら、景気回復と税収増を以て臨む本来の姿に帰つて考へるべきである。安倍さんもアメリカのG7から戻つてきたばかりで、難問山積で、苦労が多くなつてきている。ここは忍の一字で頑張つてもらうしかない。野党結集で政治も大きく動いてきているが、健全な野党の存在こそ大切であり、政権与党の充実を図ることにもつながつていき、国民的観点からして重要な事柄と受け止めている。トランプのような急進的な過激な

発言や行動は、これを以て他山の石として厳に慎重にしてもらいたい。花見に出かけたつもりが、ナーバスな観想をする結果になつてしまつたが、憂国の情余りあつての結果である。

尾山台商店街のハッピー・ロードを歩いて通りにある世田谷区の区立図書館に入つて3階の閲覧室の机に向かつた。2階に蔵書が沢山おかれ、大部分が閲覧・貸し出されることになつてゐる。この日いつものようには3階に上がり、大判の書籍を置いた書棚から、土門拳さんの古都の風情と称する写真集を取つて作品を見ていた。古都の奈良の思い出を手繕りながら、昔そのままの法起寺の寺の様子が、懐かしく撮られてたのに見入つていた。館内はいつも静かで静謐が保たれている。気持ちが落ち着く時間である。ここで何時間も時間を過ごす人もいるが、私は長くて一時間、用を済ますと人に席を譲つて出て来る。借りたい本があれば借りて家で読むことにしている

が、目的を達成したことはない。それにしても書物の氾濫は物凄さがある。図書館はさておき、田園調布にある三省堂に立ち寄つたりすると新刊書があたりかまわらず並んで積まれている。有楽町駅前の交通会館にある三省堂も然り、出版界も大変だと思うが、出版物の発刊数は文化のバロメーターとは云うものの、その出版物の質にもよるし、劇画・マンガの類いが多いのは子供たちの教育上、果たしてどんなものだろうか。本の読み方を先ず心得てからにしてもらいたいものである。スマホ時代に入りして、こうした世界の先行きにも懸念すべき事柄が多い。学校教育の先を行つて、子供たちが基本を学ばずに軽薄な知識を追つて悪癖を身につけてくようでも困る。CDを使ったパソコンでの読書、閲覧だって可能である。スピードを以て広がる情報化時代への対応は、中高年者諸君には不得手な分野には違いないが、情報ネット社会と、個人生活は切つても切れない社会に突入

しているのが実際である。年齢に限らず、ということは若者にとって、これから社会に挑んでいく若年、壮年の人たちにとって、機能化された構図の生活の中で、如何に個を維持し守っていくか、個の意識の持ち方を真剣に考えないと人生觀に狂いが出て来ることになるだろう。組織化された社会、地域から距離を置いて自分自身を、自分の姿と存在を凝視する時間を持つことが、その人にとつて高度な生き甲斐を持つことにもなる。

名所短報　目黒川の桜並木

花見に出かけたついでに、付近で有名な目黒川について述べないと片手落ちになつてしまふ気がしてきた。毎日の通勤でお世話になつてゐる東横線中目黒駅である。目指す目黒川の桜並木の豪華絢爛たる美しさ華やかさは、圧巻の一言に尽きる。目黒川は私が住んでいる世田谷区の等々力近くの深沢辺りから発して目黒区、品川区を通つて流れる全長8キロほどの川で東京湾に注いでいる。目黒川の桜と云ふと、中目黒駅からわずか1分のところで鑑賞できる。川沿いの両岸には約800本を数える桜の樹が植えられており、巨木となつた老木は元氣であり、驚くほどに生命力が旺盛で、その分見事な枝ぶりで沢山の花をつけている。川をまたぐよう花の枝をしだれて、桜は今日が花の最盛期である。普段から川沿いの桜の下には道に沿つて、多くの洒落た商店が開かれている。屋台も沢山出て、観光に来る人たちに解放さ

れている。夜には提灯が明かりをともして華やかに、桜の風情を一層引き立て、川を眺めながら一瞬、舟遊びと観桜の豪華な一夜の遊びにふけつてしまつよう世界に変容する。今日あたりは、最高の人出でござつた返していることであろう。人々の混雜と、もしかするとおびただしい喧騒ぶりは、花の風情をぶち壊さないとも限らない。駅のホームは一杯で中目黒駅の入場制限だつてあたりして、山手通りは人であふれてしまつだらう。花の下で飲食を加えたりして賑やかな景気付けには良いが、花より団子に走つたりして、もはや粹な花見どころではなくなつてしまつかもしれない。この際はよつぱど贅沢かもしれないが、花に下にひとり立ち、真砂の花びらを天空の星になぞつて想像豊かに夢を追つた方が良いと思つてゐる。ねこじやら公園にはわずか三本の樹しかなかつたが、広い敷地に広がつた花の枝は、大きな番傘を広げた様で絵も言えぬ美しさである。酔狂

によるが、花を楽しむ床しさは、この方が情緒があつて感興よろしく、粹人にとっては勝つているかもしだれない。

東京の花の名所と云うと、この目黒川の桜がだんどつに受けているそうである。特に若者に人気があるて、近くに代官山とか渋谷と云つた若者の街があるからかもしれない。しかし桜は桜でその筆到をしのぐ華やかさは真価を發揮して都内随一を誇つてゐる。その次に出て來るのが、千鳥ヶ淵公園の桜である。皇居のお堀に咲く花は絢爛とした錦絵を見やる氣配で、絵も言えぬ豪華さである。皇居の周りの一部を彩るところで、普段はあまり人の散策するような場所ではないが、この時期になると観桜客がどこからともなく溢れんばかりに尋ねてくる。次に登場するのが、わが故郷の浅草に近い上野の山の桜である。全山これ桜かなと云わんばかりに花に覆われて犬を連れた西郷どんも似際愚人で火はびつくりしている筈

である。花の下の酒盛りも羽目を外さぬ限り大目に見てくれるゝ、花見は場所取りから始まるといつた具合で、青シートを敷いて飲めや歌えやで宴会騒ぎで、その派手さは花に勝るほどのあけっぴろげな明るさである。六義園の桜も有名である。昔大学生のころ、アルバイトに家庭教師をして、巣鴨に住んで大きな屋敷に居を構えて、会社の社長をしていた息子を教えていたことがあつた。駅にほど近くあたりの一角が邸宅街だつた。週に一回頼まれて家庭教師をしていたのである。相手は慶應高校の一年生であつた。一人息子ながら贅沢な生活をしていてもかかわらず、ぐれることはなく一生懸命勉強していくことが記憶にある。全教学を教えるので大変だつた。理数系に弱い小生はむしろ補修的に勉強させられる始末であつたが、それでも楽しかつた。大学の授業を終えてから、高田馬場から山手線で巣鴨に来ていた。帰りは巣鴨からトロリーバスを使って浅草の馬道ま

で乗つて帰つてきたが、今思つと懐かしい気がしてくる。トロリーバスはそのあと言問橋を渡つて

向島の押上げまで走つていた。あの息子、高橋君は今もうしているかなと思うことがある。六義園は、そのお母さんから教えてもらつて、ぜひ訪ねてみなさいと教わつたことであつた。あとは飛鳥山の桜だらう。行つたことはないがよく耳にする名所の一つではある。

私のもう一つの休憩室

近所の花見から、横道にそれで尾山台ハツピーロードを歩いて行つた小生だが、話が迷子になつてしまつたようである。迷子になつて疲れが出てきたようなので踏切を渡つてから図書館まで行かずに、途中の行きつけのドトールに店に寄つていくことにした。この店に入ると勝手知つた店員の一人が笑顔で迎えてくれる。ちやーん組織の店には機械的に働く店員が多く、特に女性に至つては愛想のない店員が多いが、彼だけはちょっと違つている。だから行きやすいのである。理由は判らないが、家内は苦笑している。ハツピーロードには他に上品なコーヒー店が数か所あるが、入りたがらない性分だから仕方がない。値段を比較しているわけではない。専門店だから当然だが、香りと味は、他の店とは別な感じがしているし、この店の入りやすさと従業員の応対があげられるかもしれない。中央の丸テーブルの隅の席を定め、

物書きに没頭できるのは不思議といの店だけで
ある。家内は不思議がつてゐる。あまり遅くなる
と家内はついでに、いつもこの店を覗きに来る。
そんな時には私が紙とペンをとつて、必ずいるか
らである。私はドーナツの店を出た後、尾山台図
書館により相変わらず十門拳さんの故郷の風景
写真集をめくつて旅情にひたり、帰途についた。
等々力5丁目の交差点の北西の角には600坪
ほどの公園があるが、ここに植えられてから五年
ほど経つ桜の樹はなんと美しい枝ぶりで満座に
花びらを付けて咲いていることだらう。丸く広く
広げた花の枝の下をぐるりとめぐつて見上げた
空は、花の雲に覆われて見通すことが出来なかつ
たほどである。まさに春爛漫の花の世界を見上げ
て、恍惚とした心境であった。夕方になってしま
つたが、帰宅して拙宅にある桜を静かに眺めてい
た。私は思いつくままに、いろいろな場所の桜を
話してきた。拙宅の庭にも50年ほど時を経てき

た染井吉野が一本ある。見ごろになると、桜の華
やかな風情と、散り急ぐはかなさを居ながらにし
て眺めてきた。昨年の手入れの時に一部の太い幹
と、枝を切り落とした後で、今年つけた花はわず
かではあつたが霞がかつたようであり、近寄つて
花びらを眺めると、反つて気品に満ちて静かな風
情が愛おしく感じたのである。そして幹をなでな
がら、いつものように拙宅の桜が一番きれいだと
納得したのである。

4月3日

浅草散策

所用があつて浅草に出かけた。相変わらずにぎわいである。外国人観光客が、今年が急増してホテル不足だということらしい。俄か仕事ではないが、民泊を奨励するような政策が政府、自治体で検討されているようだし、増加する空き家対策にも活用しようとしているらしい。増加する外国人観光客についてはひとつ騒がれた中国人の爆買いと云つた傾向は鎮まつて、極めて質素なものになつてきらし。浅草雷門あたりに沢山の観光客が集まつてきてゐるが、ホテルからはみ出された人たちは一体どのよな場所に宿泊先を求めてゐるのか、心配である。旅行先で嫌な体験をして、不愉快な気持ちを抱いたりしなければよいがと願つてゐる。日本人は親切で優しいと云われているが、内気などころがあつて、行動に移すことが下手な面を持つてゐる。国民性だから致し方ないが、訪れた観光客を町内や、商店街の人た

ちがグループを組んで教えたり誘導したりする活動が実際的でいいよな気がする。昔から向こう二軒隣と云つた意識が根強いゆえに、現実味がある。

雷門から人力車に乗つて一斉よく飛び出していく人もいたが、人力にもぐりが出たりしないようには鑑札を下げて、それがない車には乗らないよう案内してやることも必要である。都内的一部分で地価が上がりつてひとつのバブルの様相だが、日本がかつて経験したように、金融都市のニューヨークでも、最近の中国のよう経済みな話なのに、目先に飛びつく投資家の人々がいまだに多いようである。時代が変わっていつバブルがはじけないと限らない。この一二年は要注意である。最近知人が浅草に持つ土地を売った方が良いかどうかの相談を受けて、私はしかるべき自信を以て名回答を出しておいたつもりである。ケースバイケースだが、逆もまた真なり、騒ぐ時こそ慌て

るなどといった素朴な教えに従つて告げたのである。人間の心理には微妙なものがあって、学校で教わったようなことが即、有象無象の人間社会に当てはまるとは言えない。取捨選択の賢明な判断が必要である。新仲見世通りに古くからあるうなぎの店「つるや」に入つてお客様と一緒に昼食をとつた。昔から鰻と云うと、母が良くこの「つるや」さんからうな重の出前を取つてくれていたことを懐かしく思い出した。店の鰻は美味しく上等なもので、浅草に来ると良くこの店によつて入る。知らない店に入るより、勝手知つた店が一番安心してはいることができるのだ。古くから行きつけで馴染みの店に「きく川・日比谷店」がある。うなぎの老舗である。この店の特徴は、うなぎの絶妙な旨さである。うな重を注文してやおらふたを開けると、かば焼きが箱からはみ出さぬよう尻尾が折りたんて出て来る。大きな上等なうなぎを惜しみもなく使つてゐる証拠でもあ

り、ほかの料理にしても味覚が味わえて心が行き届き、客人を温かくもてなししていることが良く感じて來るのである。そして店の落ち着いた雰囲気はもとより、仲居さんはじめ職人の客人に対する心のこもつたもので、仲居さんたちはいつも温かく、笑顔を以て出迎えてくれる。だからこそ、その気になると贅沢な食事であるが、自然と足が「きく川」の暖簾に向いてしまうのである。舟和と云う店も和菓子の老舗であるが、すぐに浮かぶのはこの店の芋羊かんである。虎屋の羊かんと並べて置いたら客人が、芋羊かんがうまいと云つて先に食べていたという話を友人がしていたくらいである。一階には和菓子を販売する店になつてゐるが、二階に喫茶室があることを知つて、仕事疲れの解消にコーヒーをのみたまこと上がりてみるとした。自動ドアが開いたのでそのまま飛び込んだが、客人はみんな女性ばかりで満員であった。さすがに甘味処の店だけにとは思いな

がら、入ってしまったからには引き返すわけにもいかず、空いた席が一つあったので、これも観察と勉強だと思いながら店の逸品を注文することにした。付き合いでと思ってみんなが食べている「あんみつ」を注文したところ、思ったよりボリュームがあつて、人気のあるわけが分かった。童心に帰つて甘いあんみつの中味を賞味していた。

舟和を出て仲見世の通りに出た。噂の通り外人の観光客でにぎわっている。人形焼きを焼く職人の手さばきを興味深く眺めて、買って行かないところを見ると、観光客の懐具合も渋ちんになつてきているかなと思つた。浅草寺の広い境内には、宝蔵門をくぐり正面に壮大な本殿を拝することができる。左には華麗な立ち舞いで、朱の五重塔が高く聳えている。きらびやかな朱色の極楽浄土の世界を地上に再現したものだが、その中にたたずんでみると、一瞬ながら脱俗の気持ちに誘われるこれが不思議に思える。学生時代の友人の一人が、

この参道の仲見世通りに小物屋の店を出している。今日は娘が出て手伝つてゐるらしく、本人がいなかつたので、そそくさと通り過ぎて急ぎ雷門をくぐつて表通りに出、地下鉄に乗つて会社に帰ることにした。堂々とした雷門と大きな提灯を振り返り、仁王さんに手を合わせ神谷バーの方角に歩いて行つた。隅田川にかかる吾妻橋が、ここで朱に塗られて鮮やかである。そうした下町の庶民的な情緒をぶち壊すように、今や観光名所となつた東京スカイツリーが無骨な骨組みの姿を天空にさらして聳えていたのが印象的であつたが、それは、界限の古い町並みと浅草浅草寺あたりの雰囲気からいきなり抜け出してきたがゆえに抱いた、違つた意味での違和感である。

四天王、增長、多聞、広目に持國天と姿猛きも

桜咲く便りに浮き足たちぬけふ旅の備へに妻と
せはしき

誰にかと問はればいとし恋人の名をあげ文を書
き添へけり

敬愛す尾張りの友ゆ巻紙の床しき文に花の報ら
せ来

花の空おぼろにかすみ上りくる月さへにじむ宵
のかげかな

美美子抄花の命は短しと嘆く女のさもあらなく
に

古里の村を訪ねてしみじみと林美美子の歌に魅
かれし
火の山のけむり立つ見ゆ古里の鄙路に覚ゆ人の
はかなき

隅田川岸辺に春のそよかぜに歌ひて遊ぶ童たち
かな

下町のまどろむ宵の花のいろ隅田の川に舟遊び
せむ

願はくば桜の花の下にゐて美女に囲まれ酌をう
けたし

今むかし歌ふは春の隅田川調べに言問橋を渡り
ぬ

欲深く桜の花のもとにあるて長寿ととわの命ねが
へり

驚きて言問橋の交差点立ちてスカイツリーを見
やるに

よろこびのあと悲しくもちりいそぐ花のいのち
のかなしかりかり

花びらの吹雪く桜の樹の下に立ち爛漫に遊ぶ如
何にも

目黒川沿ひのさくらの爛漫とひとときはしだる枝
の川面に

なぐさめと癒しに詠みぬ歌なれば日常茶飯にな
らひ常にも

散り急ぐ花の我が身にふりそぞぎたださへ悲し
声を聞くかも

これほどにあまたに詠みしうたなれば揃へ置く
べく努めゆかめど

さりげなく詠みたる歌のさまざまに我がいのち
の尽きるはてまで
なにゆへに斯くもにはかに散り急ぐわれにその
ゆへ語りあかせや

はなびらの降りしく下に我たてばちさき天使の
すり泣くこそえ

喜びのあとはかなさをこめて散る花の命の悲し
かりけり

花びらの音なく散りし桜にもなどかはかなき声
の聞きしに

はかなくも花のいのちと思ひけむ散りしきる日
の姿あはれに

華やかに桜の花の燃え尽きて急ぎな散りそ斯く
もあはれに

人々に慈愛を示し」の世にそ栄への道をさとし
たまへり

天平のみ世を治めし聖徳像すぐれて描く杉本画
伯は

一瞬をとらへ絶妙の作品に杉本画伯のすがた写
せり

天平のみ代を治めて類ひなき聖徳太子を描く巨
匠は

写真家の冥利に尽きぬ斑鳩の里を撮らるる杉村
大兄

いかるがの里を写していみじくもあまたの作を
世に残し行く

感動を以て楽しむ作品に在りしこの身を嬉しと
ぞ思ふ

流れ書く墨字に友のこころねに床しくふれて学
び習へり

素晴らしき友の便りを爛漫の桜の花の下に読み
けり

4月7日

こうらねのやさしき文に何気なく返歌を一首詠
みでしるせり

渾身の筆に画伯が描きたる太子の氣高く立ちて
まします

ありがたく思へし友のなさけにて手あつき文に
学び習へり

すぐれたる写真にわれの和歌一首詠み添へ載せ
しげけあつきも

レオナルド・ダ・ビンチ

たまたまに観るダビンチの絵画なり何かと思ひ
浮かびける身に

ダビンチの最後の審判の大壁画その圧巻に思い
迫れり

美しき妃と共に立ちまする聖徳太子の貴きみす
がた

この絵にも画伯の深き思ひあり心の花と謂ひし
壁画に

天上のみ国におはす太子とも「ながらに思ひ」
がれし

得も言えぬ色合いの世を背にいたす太子に深き
思ひ偲べり

渾身の筆を振るひて六年の歳月をかけ描く太子
を人々に慈悲を示して限りなく安寧の道ねがふ太
子は

レオナルドダビンチ巨匠と大和絵の杉本健吉画
伯合はせり

六年の歳月をかけ描き上げし壁画に示す大作の
あと

両雄の宗教觀は違へども畏敬の念を対象化せり
われなりに思ふ人間性の顯はなり今に杉本画伯
とダビンチ

システィーナ礼拝堂の大壁画かたや四天王寺の
障壁画像と

歴史的傑作となるそれに並べて見しは意義深きなり

キリストを真なかに庶民の有象無象三百九人を描ぐダビンチ

天国と地獄へ人の喜怒哀樂描く最後の審判の絵
六年の歳月をかけ大作を違ひはあれど史に記しけり

東西の巨匠は世にそ崇高な世界を描きのちに残せり

改めて聖徳太子像
6年の歳月をかけて昭和5・8八年に完成したといわれる杉本健吉氏の大作、四天王寺の絵堂の障壁画の聖徳太子像は、天平のみ世を安寧に治め日本の國の礎を築いた名君であり、それを回顧顕彰して、画伯が渾身を以て描いた傑作である。その聖徳太子像は氣高く威厳に満ちて崇高であり、観る人を以て等しく畏敬の念を禁じ得ない心境に導いてくれる。その深遠さに、強く魅せられるものである。私は今回、そのいきさつとあるがままを、杉村大兄から頂いたいくつかの書状で学び知ることが出来た。蓮の花に立ちます太子の姿は高貴に満ちて、み顔は名状しがたき程に聰明さと気品が漂い、これを描いた画伯の太子に抱く熱い思いも、まざしく伝わってくる。

杉村大兄は、その太子像を写した美しい写真の一枚に、私が詠んだ和歌のうち六首を載せて、このほど送つてきて下された。なんという光榮かと、

汗顏の至りに武者震いするありさまである。大兄から頂戴した作品を見ながら、不遜にも聖徳太子のみ姿を頭に置きながら、無念の心境で何首かの和歌を朗詠する結果になつたが、それを本欄に載せて各位に鑑賞願いたいと思つて先に掲載した次第である。大兄はその中から次の和歌の六首を選ばれて、上記の作品をお作り下さつた。光栄この上なきことと思い、ありがたき幸せでいっぱいである。作品は次の月刊誌『昭和經濟』に掲載したく思つてゐる。各位には大兄の写真を以て広く改めて聖徳太子の威徳を傳んでいただきたく思つてゐる。次に六首の内の二首を記して、各位にお読みいただきたいと思う次第である。

優雅なり聖徳太子のみ姿の氣高く人のよすがなるべし
かしこみて仰ぐ聖徳太子像わがまほろまに今も
あられり

4月10日



作品 関根常雄

月刊誌掲載者・昭和経済 論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十八年五月）

大内義一

早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）

萩原伯永

（株）日本經濟社 日經専務

牛場信彦

外務省顧問

広瀬嘉夫

NHK解説委員

安井謙

参議院議長

加藤寛

慶應義塾大学教授

豊原兼一

NHK解説委員

斎藤栄三郎

参議院議員

岡村和夫

NHK解説委員

石井義昌

櫻桂川精螺製作所 社長

糸川英夫

通産省産業政策局長

宮本四郎

豊田雅孝
（社）日本中小企業団体連盟

安井謙

前参議院議長 自民党顧問

大来佐武郎

对外経済関係 政府代表

藤原弘達

政治評論家

堺谷太一 作家

原田正二 大正大学教授

豊田雅孝

当会顧問

安井謙

第一勵業銀行産業調査部長

山田勝久

通産省商政策局国際経済部長

岡松壯三

通産省電子政策課長

村山祐太郎

鈴木金属工業副会长

山本幸助

通産省産業政策局長
産業資産課長

堀江忠男

早稲田大学名誉教授

寺島祥五郎

画家

安井謙

当会顧問 自民党最高顧問

田山晃

元読売新聞政治部次長
参議院議員

鈴木三子郎

元税務大学教官 税理士

竹下登

大蔵大臣

福田赳夫	衆議院議員	井浦康之	企業コンサルタント
斎藤榮二郎	商学博士 法学博士 文化学博士 参議院議員	水谷研治	東海総合研究所 理事長
河野洋平	衆議院議員 員	バツラフ・ハベル	チエコ大統領
前川春雄	前 日本銀行總裁	平野憲一郎	日本経済新聞 マニラ市局長
黒田眞	通商産業省 通商政策局長	吉田和男	京都大学教授
堀江忠男	大月短期大学学長	石川忠雄	慶應義塾大学名誉教授 学長
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘	元首相
鈴木俊一	東京都知事	中山素平	日本興業銀行 特別顧問
田村次朗	米国企業公共政策研究所 所長	北岡伸一	立教大学教授
目良浩一	東京国際大学教授	島田晴雄	慶應義塾大学教授
行天豊雄	東京銀行会長	吉田和男	京都大学教授
吉川洋	東京大学教授	塩野谷祐一	一橋大学名誉教授
竹中平蔵	慶應義塾大学教授	宮沢喜一	元 首相
加藤寛	慶應義塾大学教授	山田伸二	NHK解説委員
原田和明	三和総合研究所 理事長	石井明	東京大学教授
鳴武彥	政府税制調査会会長	加藤寛	千葉商科大学長
大山昊人	東京国際大学教授	伊藤裕章	朝日新聞ワシントン特派員

小宮隆太郎	東京大学名誉教授	北岡伸一	東京大学教授
島田晴雄	青山学院大学教授	石原慎太郎	東京都知事
樋口廣太郎	慶應義塾大学教授	ランコ岩本	ランコ・インター・シヨナル代表
奥野正寛	アサヒビール会長	ジエームス・D・ウォルフエルソン	世界銀行総裁
橋本大二郎	東京大学教授	シモン・ペレス	イスラエル外相
福川伸次	高知県知事	山口光恒	慶應義塾大学教授
鈴村興太郎	電通総研研究所所長	岡崎久彦	元駐米公使 駐タイ公使
清水啓典	一橋大学教授	ポール・サミュエルソン	経済学者
高橋伸彰	立命館大学教授	大野健一	政策研究大学院大学教授
中谷巖	一橋大学教授	佐々木和男	サウディ石油化学㈱社長
金大中	韓国大統領	ドナルド・ラムズフェルド	米国防長官
佐和隆光	京都大学教授	イアン・ジョンソン	世界銀行副総裁
茅陽一	慶應義塾大学院教授	竹森俊平	慶應義塾大学教授
吉田和男	京都大学教授	山本清治	経済評論家
榎佳之	東京大学 医科学研究所 大学院教授	朱建榮	東洋大学
高橋伸彰	立命館大学教授	アレクサンドル・パノフ	駐日ロシア大使
月尾嘉男	東京大学教授	林光夫	ナショナル日系博物館ヘリテージセンター理事 (前 理事長) 日系プレース基金理事

今井賢一	スタンフォード大学 名譽シニアフェロー	大西 隆	東京大学教授
吉川弘之	東京大学元学長	山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長
池尾和人	慶應義塾大学教授	深尾京司	一橋大学教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	山本 熱	慶應義塾大学准教授
林 良嗣	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
土居丈朗	慶應義塾大学教授	吉川弘之	東京大学元学長
脇坂 明	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稻田大学教授
関 満博	慶應義塾大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
古谷 浩一	朝日新聞記者	ジム・フレアティ	カナダ財務相
御厨 貴	東京大学教授	伊藤元重	東京大学教授
田中明彦	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	藤原帰一	慶應義塾長
山内昌之	東京大学教授	緒方貞子	東京大学教授
高安秀樹	明治大学客員教授	田中素香	国際協力機構（JICA）理事長
浜田宏一	エール大学教授	申 珊秀	中央大学教授
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	加藤弘之	駐日韓国大使
植田和弘	京都大学教授	新宅純一郎	神戸大学教授
松本 紘	京都大学総長	岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト

若宮啓文	朝日新聞主筆
中沢克二	日本経済新聞社 中国総局長
猪木武徳	青山学院大学 特任教授
長山浩章	京都大学教授
石川城太	一橋大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
篠崎彰彦	九州大学教授
翟林瑜	大阪市立大学教授
横山 彰	中央大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授
原 真人	朝日新聞編集委員
若宮啓文	朝日新聞本社主筆
小林慶一郎	帝京平成大学教授
須藤 繁	一橋大学教授
翁 邦雄	京都大学教授
下斗米伸夫	法政大学教授
吉川 洋	東京大学教授
渡辺 博史	国際協力銀行副総裁・元財務官
澤田 康幸	東京大学教授
北岡 伸一	国際大学学長
有田 哲文	朝日新聞編集委員
柴田 直治	朝日新聞国際報道部
竹森 俊平	慶應大学教授
磯田 道史	静岡文化芸術大学准教授
橘川 武郎	一橋大学教授
伊藤 元重	東京大学教授
山内 昌之	明治大学特任教授
白石 隆	政策研究大学院学長
土屋 英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
戸田 悅造	懸賞論文 優秀賞
青山 慶一	早稲田大学教授
瀬口 清之	キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
今井 賢一	スタンフォード大学名譽ニアフオロー
田中 伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
宮本 雄一	宮本アジア研究所代表 外務省顧問
菅原 宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
白石 隆	政策研究大学院学長

野中郁次郎	一橋大学名誉教授	実 哲也	日本経済新聞社論説委員長
矢作 有吉	龍谷大学教授	御厨 貴	東京大学名誉教授
伊藤 御厨	章 一橋大学教授	山内 昌之	東京大学名誉教授
邦雄 伊藤	貴 東京大学先端技術研究センター教授	北岡 伸一	国際大学学長
大村 敬一	一橋大学教授	伊藤 元重	東京大学教授
御厨 貴	早稲田大学教授	川島 真	東京大学准教授
山内 昌之	放送大学教授	西條 郁夫	日本経済新聞社編集委員
北岡 伸一	明治大学特任教授	滝 順一	日本経済新聞社編集委員
葛西 敬之	明治大学特任教授	山脇 岳志	朝日新聞アメリカ総局長
岡崎 哲一	東京大学大学院経済学研究科教授	榎原 英資	青山学院大学教授
山内 昌之	明治大学特任教授	中鉢 良治	産業技術総合研究所理事長
池上 彰	東京工業大学	北坂 真一	同志社大学教授
山崎 朗	中央大学大学院経済学研究科教授	野村 浩一	慶應義塾大学准教授
橋本 和仁	東京大学教授	吉川 洋	東京大学教授
石川 健治	東京大学教授	岩井 晋次	日本経済新聞社記者
桂子 戸堂	大阪市立大学准教授	遠田 敬之	JR東海名誉会長
康之 松永	早稲田大学教授	青延 加藤	NHK解説委員
誠弘 三田	武藏野大学文学部部長	植田 和弘	京都大学教授

森口 千晶 一橋大学教授

スタッフオード大学客員教授福元

吉川 洋 東京大学教授

久保 文明

東京大学教授

竜哉 読売新聞社記者

吉川 洋 東京大学教授

細谷 雄一

慶應大学教授

大村 敬一 早稲田大学教授

藤原 帰一

東京大学大学院教授

清家 清 慶應義塾大学義塾長

植田 重雄

早稲田大学名誉教授

大橋 弘 東京大学教授

伊藤 元重

東京大学教授

中川 淳司 東京大学教授

大西 隆

豊橋技術科学大学学長

石川 城太 一橋大学教授

櫻川 昌哉

慶應義塾大学教授

竹中 平蔵 慶應義塾大学総合政策学部教授

堺屋太一

作家

水野 裕司 日本経済新聞社論説副委員長

栗栖弘臣

統合幕僚長

川口 健史 日本経済新聞

加藤寛

慶應義塾大学教授

神里 達博 千葉大学教授

糸川広洋

組織工学研究所 所長

御厨 貴 東京大学教授

大来佐武郎

対外経済担当大臣

大泉 啓一郎

斎藤栄三郎

科学技術省長官

滝 順一 日本経済新聞社

柿沢弘治 衆議院議員

日本総合研究所 調査部 上席主任研究員

川口 健史 日本経済新聞社

浜田幸一	衆議院議員	鈴木俊一	東京都知事
木元教子	評論家	黒田眞	通商産業省 通商政策局長
岡松壯三郎	通産省電子政策課長	上野明	野村総合研究所 主任研究員
稻川泰弘	通産産業省政策局	前川春雄	前日本銀行總裁
藤原弘達	商務サービス産業室長	大山晃人	NHK解説委員
山本幸助	政治評論家	野坂昭如	作家
岡松壯三郎	通産省産業政策局長	水野哲	通産省産業政策局
山田勝之	通産省生活産業局長	堀江忠男	産業政策局総務課長
鈴木幸夫	通産省国際政治部長	梅沢節男	早稲田大学名誉教授
山室英男	テレビ東京解説委員長	田川誠一	国税庁長官
佐野忠克	NHK解説委員長	森亘	進歩党代表 衆議院議員
河野洋平	通産省宇宙産業室長	藤井康男	東京大学総長
寺島祥五郎	衆議院議員	水城武彦	龍角散社長
長富祐一郎	当会理事	大山晃人	NHK解説委員
吉澤忠義	大蔵省官房審議官	斎藤栄三郎	NHK解説委員
吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長	内田満	国務大臣 科学技術庁長官
天谷直弘	(財)産業研究所顧問	岡松壯三郎	早稲田大学教授
水谷研治	元 通産省審議官	水谷研治	通商産業省生活産業局長
			東海銀行常務取締役調査部長

有馬朗人	東京大学総長	テレビ朝日ニュース・ステーション
松本和男	経済評論家	元 NHK解説委員
大山晃人	NHK解説委員	大山晃人
鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長	木村時夫
	元 日本銀行理事	早稲田大学名誉教授
松永信雄	外務省顧問 前駐米大使	井浦康之
霍見芳浩	ニューヨーク市立大学大学院教	井浦コミニケーションセンター
村松暎	慶應義塾大学名誉教授	当会理事
飯田健一	NHK解説委員	水谷研治
L・A・チジヨーフ	駐日ロシア連邦大使	東海総合研究所 理事長
大山晃人	元NHK解説委員	目良浩一
	東京国際大学教授	筑波大学臨床医学系内科教授
小浜維人	NHK解説委員長	山下亀次郎
青木匡光	メディエーター（人間接着薬）	斎藤精一郎
紺谷典子	（財）日本証券経済研究所	立教大学教授
	主任研究員	岩國哲人
原田和明	久保亘	前 出雲市長
和田俊	大山晃人	浅井隆
	東京国際大学教授	岩田規久男
	NHK解説委員	上智大学教授
	吉田春樹	久保亘
	和光経済研究所所長	大山晃人
	経済評論家	東京国際大学教授
三和総合研究所		山田伸一
原田和明		NHK解説委員
和田俊		吉田春樹
		副島隆彦

ポールシェアード ベアリング投信投資顧問(株) 日

本株運用ヘッジ兼ストラジスト

早坂茂二 田中角栄 元 秘書

山田伸一

中村敦夫

原田和明

西澤宏繁

亀井静香

山田伸一

武者陵司

川崎真一郎

金子一義

山口義行

山田伸一

斎藤精一郎

千葉商科大学教授

伊藤 達也

高木新一郎

㈱産業再生機構 産業再生委員長

斎藤精一郎 千葉商科大学大学院教授

㈱NTTデータ経営研究所所長 社

会経済学者 エコノミスト

佐々木和男 学校法人静岡理工科大学理事長 元

三菱商事㈱本部長

サウディ石油化学㈱ 前社長

三原 淳 経済評論家 株式評論家

石川 一洋 NHK解説委員

元 モスクワ支局長

山田 伸一 NHK解説主幹

中谷 元 元 防衛庁長官 衆議院議員

林良 造 東京大学教授

渡辺 嘉美 元 経済産業省 経済産業政策局長

山崎 淑行 みんなの党代表 衆議院議員

NHK科学文化部 記者

中谷 巖 一橋大学教授

ロバート・フェルドマン

経済評論家・エコノミスト

月尾 嘉男 東京大学名誉教授

山田 伸一 NHK解説主幹

山内 進 一橋大学学長

板垣 信幸 NHK解説主幹

熊野 英生 第一生命経済研究所首席エコノミスト

五十嵐 敬喜 三菱UFJリサーチ

加藤 青延 &コンサルティング 執行役員

井浦 康之 NHK解説委員

竹内 明日香 (株)アルバ・パートナーズ
(株)井浦コミュニケーションセンター

平成二十八年 五月 十七日 印刷
平成二十八年 五月 十九日 発行

昭和経済 第六十七卷 第五号

佐々木 誠 吾

編集人 兼発行人
印刷所 日本印刷株式会社

発行所 公益社団法人 昭和経済会
事務局 〒104-0018 東京都中央区八重洲二ノ十ノ二

T E L (六八二)〇六〇〇〇番
F A X (一一七一) 三一〇四番

e-mail=info@showa-ec.or.jp
<http://www.showa-ec.or.jp/>

天平のみ代の榮へに聖君の姿偲べる太子像なり



公益社団法人
昭和経済会理事長
短歌同人誌 淵主宰
佐々木 誠吾

河内國 敦福寺「三骨一廟」
杉本健吉 画伯 心の花
偕老同穴の図

聖徳太子像 奉歌五十首 淵主宰 佐々木 誠吾

平成二十八年 春

まゞこころのこもりて熱き巻紙の尾張の友ゆたより届きぬ
民衆の安きを治めこの国の先を示せる聖徳太子は

春の日の注ぐ御堂にあきらけく太子の姿のひかり浮かびく
みこころを高く示してくれにたみの安きを願ふ太子まします
紅梅の炎ほむらとなりて咲にけり四天王らを祀るこの寺

太子像描く画伯に推し量る広目天の旨うほしその顔

優雅なり聖徳太子のみ姿の氣高く人のよすがなるべし

この寺に杉本画伯の筆による太子のみ顔を拝したまふに

菜の花のゆるる彼方におほてらのいらかの屋根と高き塔かな

白壁に描く聖徳太子像杉本画伯の渾身のあと

続

杉本健吉画伯
聖徳太子像
撮影制作 杉村 浩

講演会の主な講師

(講演時役職)
(敬称略)

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福
室田松木田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田篠葉野深佐田
莊祐新栄宗

正芳達弘利夫得一郎謙清郎三郎大俊彥秀三郎一郎凱夫寒大俊英彦忠義夫一郎真郎助久郎勝雄彦昭如夫一郎英男

伊金山龟西早島副山久岩斎目原和小七霍松鈴有大水森堀水藤井大
藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜八見永木馬来谷江城井浦山
精佐

昭和経済 28—5月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）
昭和25年10月19日 日本国有鉄道特別版承認雑誌第1797号

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

公益社団法人 昭和経済会

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp